



歯科医師石櫻会35周年記念誌



伝えたいものがある。歴史という誇りと力。

歯科医師石桜会

35周年記念誌

伝えたいものがある。
歴史という誇りと力。

下記のサイトで本誌のカラー版（PDFファイル）がご覧いただけます。

石桜同窓会HPを検索→支部便り→歯科医師石桜会

<http://www.sekiou-ob.com/sibu/sikaisi/index.html>

歯科医師会石櫻会 35周年記念祝賀会



歯科医師石櫻会 創立35周年記念祝賀会

平成25年6月29日 於：ホテルメトロポリタン盛岡



田中健一 会長挨拶



記念講演会 近藤 尚知 先生 (岩手医科大学歯学部 補綴・インプラント学講座 教授)
 「過去の症例から学ぶ! 失敗しない! これからのインプラント治療!!!」

記念祝賀会

来賓祝辞・歴代会長挨拶



村井伸吾校長



小枝指博同窓会長



池口杜孝元校長



山田康平前会長



岡田宗二元会長



横澤昭平元会長



横澤元会長の音頭による乾杯



参加者全員による近況報告・タイムスリップ・同窓の絆深まる…

♪校歌斉唱♪



祝賀会スナッツ



西郷史郎、田中崇一先生によるエール



♪ラグビー応援歌で一致団結！

石櫻精神、大爆発！！



見た目は無理でも気持ちは
現役岩高生 !?

村上修先生による中締



歯科医師会石櫻会35周年記念祝賀会



4列左から：田中 俊、高橋賢司、波紫修一、上原 豊、大久保卓也、赤坂俊彦

3列左から：田中崇一、柳澤 泰、岡田伸男、関 克典、関根 元、西郷史郎、村田昌明、武田秀雄

2列左から：岡村賢治、中野廣一、角田克保、渡辺充泰、野館孝之、八重樫良昌、小豆嶋正典、亀田幸宏、道又 元、村上 修

前列左から：米内 正、近藤尚知、小枝指 博、池口杜孝、村井伸吾、田中健一、岡田宗二、横澤昭平、山田康平、桂 啓文（敬称略）



記念誌発刊にあたって

歯科医師石櫻会会長 田中 健一

この度の歯科医師石櫻会35周年に当たり、待望の記念誌を刊行することが出来ましたことはこの上ない喜びであります。

我が母校の「石桜精神」というDNAは多くの諸先輩の方々、歴代の校長先生はじめ多くの先生方、我われ同窓生の大きな誇りであります。同時に我々の心の拠り所としてその精神は今も連綿と受け継がれております。

今回の記念誌発刊が歯科医師石櫻会はもとより我が母校の関係者一同の強い絆の一助となり、皆様の良き思い出を育み新たな出逢いの機会になれば誠に有り難く存じます。

さて、私共岩手高校を卒業、その後歯科医師になり岩手県内はもとより全国各地で歯科医療、保健衛生に従事する「歯科医師石櫻会」も百二十余名の会員組織に発展し発足から35年が経ちました。今では多くの仲間をつなぎ情報交換し、共に学んで共に発表し相互研鑽する本会も、昭和52年の当初は名簿作りから始まったのが第一歩で、7～8人の仲間が集まったの和気藹々の飲み会からスタートしました。

それをコツコツとやり続けて相互に専門的歯科医療の新しい技術知識の習得に励む勉強会に発展し形が整ってきたのはここ10年くらい前からです。

我が母校にとって優秀な人材が世に出て全国区で各々が活躍することは同窓生が自信をもつ大きな力になります。また、同窓生同士が歯科医療の発展向上のためお互いに連携を保ち、研鑽し合うことや時には飲食を共に語り合うことは母校と同窓生の一体感の醸成にも繋がるものと確信致します。

創立35周年を機会に県内だけでなく、全国で活躍される会員の皆様とも懐かしい共通の思い出を呼び戻すことで母校と同窓生の一体感を深めて「石桜精神」の絆のもとに連携を深めていければ最上の喜びと存じます。

結びに記念誌発刊にあたりまして、多くの懐かしい歴代の校長先生、諸先生方にも快く寄稿を頂戴し、資料のご提供も頂きましたこと、また、多くの岩手中学・岩手高等学校の同窓生会員の皆様からも貴重な思い出話や昨今の近況のご寄稿を寄せていただきましたことに重ねて心より感謝申し上げます。

目 次

35周年記念講演会・記念祝賀会アルバム	1
記念誌発刊にあたって	5
祝辞・特別寄稿	7
岩手中学・高等学校の概歴	14
歯科医師石櫻会35年の歩み	16
歯科医師石櫻会の概歴	17
会員寄稿	18
東日本大震災 被災会員からのメッセージ	46
歯科医師石櫻会報（創刊～5号）	52
会 則	72
会員名簿	73
編集後記	80





35周年を振り返って

前歯科医師石櫻会会長 山田 康平

この度、待望の歯科医師石櫻会創立35周年記念誌が発刊の運びとなりましたことは、真におめでたく会員の皆様共々心から喜びに堪えないところであります。

歯科医師石櫻会は『岩手県歯科医師石櫻会』として昭和52年頃、金子康雄先生、田中健一先生、杉江宏司さんが発起人として、照井安彦先生、飯島一先生、吉島一郎先生、岡田宗二先生、村井俊弘先生、山田康平が中心となり、40数名で発足いたしました。以来、毎年、岩手県歯科医師会の総会終了後、親睦を深めるために市内の料亭などで何度か集まりを持ってまいりました。その後、会員が増え、親睦を深めるだけでなく歯科医療の最新情報や歯科界を取り巻く状況など、新しい知識を吸収し学術的な面も充実させたいとの声が出、10年ほど前、村上修先生、小山田榮二先生、中野廣一先生、若手の先生が何度か会合を開き会則を決め、現在の親睦と研修、講演会の二本立ての形が出来上がり、再び活動を開始しました。また、「岩手県」にこだわらず、同じ石櫻の学舎を巣立ち全国で活躍している歯科医師の先生方にも会員になっていただこうと『歯科医師石櫻会』と名称も変更し、現在に至っております。

金子康雄会長のあと、岡田宗二先生、横沢昭平先生と会長をお引き受け頂き、横沢会長の年度から〔歯科医師石櫻会会報〕を発行、会員120余名の大所帯となり、纏まりのある和気藹々の楽しい会に発展してまいりました。

今、我々に残され受け継がれている大きなこの会の存在を考えると、諸先輩先生方のご苦勞、ご尽力に感謝の気持ちでいっぱいでありたいと存じます。歯科医師石櫻会がますます発展、躍進し、その使命を発揮できますよう、これからも先生方のご指導ご支援をお願い申し上げます。

終わりに、記念誌の発行にあたり活動に関わってきた先生方、35周年記念誌準備会の先生方に感謝申し上げます。



祝・歯科医師石櫻会35周年

元歯科医師石櫻会会長 横澤 昭平

歯科医師石櫻会の創立35周年、誠におめでとうございます。

本会が創立した昭和52年頃は開業して5年目で、歯科界全盛期に少し陰りが見え始めた頃だったと思います。

当時は十数人の先輩会員がいらっしゃいましたが若気の至りと申しますか、折角の石櫻会からの会合のお誘いを受けても数回程度しか参加したことのない劣等生会員だったと思います。(高校時代にクラブ活動をしなかったルンペン癖が出てしまいました)

平成18年頃になって会員数が80名を超えていることなどを知ってから、歯科医師石櫻会に対する認識を新たにしました次第です。

岡田宗二会長の後任として平成19年6月より一期2年間会長に就任致しましたが、この間は田中健一副会長・小山田栄二幹事長、並びに中野廣一幹事を始めとする新進気鋭の若手の先生方の強力なバックアップを得て、会報の創刊や講演会の充実を図り一年1回の総会・講演会並びに懇親会により多くの会員の参加が得られるように心がけました。

その後、山田康平会長にバトンを譲り歯科医師石櫻会が益々その使命を発揮し躍進著しいことは、誠に嬉しい限りです。

今や120余名の会員を擁する歯科医師石櫻会と、間もなく創立90周年を迎える母校の今後更なる発展をご期待申し上げます。

最後になりましたが、歯科医師石櫻会を創設された故・金子康雄先生への御霊に心より感謝を申し上げご挨拶と致します。



会長に就任して

元歯科医師石櫻会会長 岡田 宗二

歯科医師石櫻会創立35周年おめでとうございます。

このたび元会長在職の立場でとの要請を受けましたが退任してから10年近くになり、後期高齢とともに自分の記憶もだいぶ薄れてきましたことをお許しいただきたいと思えます。

私は昭和31年に岩手高校、新8回の卒業であります。とともにその後歯科医師として半世紀今日迄歩んでまいりましたことにつきましてたいへん誇らしく、またうれしく思っております。

顧みますれば平成15年、大先輩の金子康雄先生（旧17回卒）のあとをうけ継いで会長を引き受けました。私が会長を仰せつかってまもなくたいへん喜ばしいことがありました。それは小豆嶋正典先生（新23回卒）が岩手医科大学歯学部放射線学講座の教授に御就任されたという朗報に会員一同心から祝福したことでした。

会員数も現在120余名の大所帯になったようですが今日の基盤を確立されたのも会員のみなさま方はもとより嘗て永年会長を努められた金子先生と大先輩の川村陽一先生が会の育成に尽力された賜であると存じております。お二人とも他界されていらっしゃいませんがきっとどこかで35周年を祝っていることとおもいます。

私は一期3年のあいだ会員の方々にささえられ努めました新らためて御協力に心から感謝する次第です。そしてこの度創立35周年の節目に記念祝賀会を開催されますことを喜ばしく思っております。

今後とも皆様方のご健康とご活躍そして会の益々の発展をお祈り致します。



学校教育における「人材育成」

岩手中・高等学校校長 村井 伸吾

歯科医師石桜会がこのたび三十五周年を迎え、記念誌を刊行するに至りましたことを、心からお祝い申し上げます。

私は、平成十九年教頭の職に就く前は、生徒指導を担当し授業では主に現代文を教えていました。したがって、授業の中でも生徒作法について話す機会が多くありました。時には、大声で叱りつけることもありました。いつの間にか、当時の生徒からは岩手高校の「四天王」のひとりとして畏れられる存在になっていたようです。校長になった今思うと、そんな生徒との触れあいが大変懐かしく感じられます。

現代の多様化した学校教育は、ごく細かいところまで組織化されなければならず、きりのない雑用を次から次へと生み出していきます。それが教師の多忙にもつながり、生徒を教え育むという本職から離れていくような気がします。私自身も生徒のためにやっているのか、組織のために動いているのか不安になることがあります。

私は、授業の中で経験や知恵の大切さを生徒達に教えてきたつもりです。――昔は、遠くで雷の音がすると、お年寄りの子供に向かって「おへそを隠さないと雷様に盗られるよ」とよく言う。そこには、夏の夕立の降り始めには、温度が急激に下がるというお年寄りの経験による知恵が働いているのだと――。

長年にわたってつくられてきた経験や知恵を、文化のひとつの特色として次世代に伝えるとともに、築きあげられてきた伝統を尊重しながら新時代に適応させていくことは、教育においてもっとも大切な役割なのではないでしょうか。

本校においても、今後創立以来引き継がれてきた「平和的、文化社会の形成者として自主独立の気風の下、理想と信念と実行力ある人物を養成する」（岩手高等学校学則第一章第一条より）という教育目標を見失うことなく、新たなる岩手中・高等学校の伝統を生徒・教職員、そして豊富な経験に基づく知恵をもつ先輩諸兄の皆様方と力を合わせてつくっていくことこそが、社会に貢献しうる次世代の「人材育成」につながっていくのではないかと思います。



お祝いのことば

前岩手中・高等学校校長 菊地 治雄

この度の歯科医師石櫻会35周年を迎えられますことに対しまして、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

この間、歴代の会長様をはじめ役員の方々のご尽力と、そしてまた石櫻同窓生としての強い絆で結ばれた歯科医師の皆様方の思いがあったから、35年という長い間継続されたと拝察いたしております。

校長在職の時、何度か総会に出席させていただいた折りに、講演会での先生方の熱心な研修の姿と、懇親会での和気あいあいとした姿を拝見し、大変心強く感じたことを思い出します。多くの人々の歯の健康のため、日夜懸命に取り組まれております、同窓の歯科医師の先生方に、同窓生の一人として誇りに思っております。

また、貴石櫻会から歯科校医として先生を派遣いただき、後輩である在校生の毎年の歯科検診にご貢献いただき、誠にありがとうございました。改めまして感謝申し上げます。

そしてまた、先の東日本大震災においては、先生方の献身的なご努力により多くの身元不明者をご家族のもとに帰すことが出来たとの報道に接し、本当に頭の下がる思いをしました。

終わりに、会員皆様方の更なるご活躍と、歯科医師石櫻会の益々のご発展をご祈念申し上げます。お祝いのことばといたします。



更なる発展を願う

元岩手中・高等学校校長 池口 杜孝

今般、歯科医師石桜会創立三十五周年を迎えられ、記念事業の一環として、記念誌の発刊に至りましたことは、誠に時機を得た企画であり、衷心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

地元岩手からの人材の輩出を願った、岩手中・高等学校創立者の設立の趣旨は、脈々と受け継がれ、多方面にわたり多くの人材を世に送り出してきたことは周知のことであり、歯科医師界においても、歯科医師石桜会が百二十余名の会員を擁して、岩手県はもとより全国の歯科保健衛生のため、大いに貢献していることは高く評価されるべきことであり、ご同慶の至りに存じます。

治療よりも予防に重きを置いた医師の指導の必要性は、言を俟たないところでありますが、私の主治医は会員の田中健一氏で、本年一月「8020コンクール」の表彰状を頂いたのも彼の徹底した指導と治療によるものであり、よく噛んで美味しく食べられることの幸せは喻えようもない素晴らしいことであり、感謝に堪えないところであります。

各界において同窓生相集い、石桜会を結成している例は多く、その絆の強さ連携の強さは私学ならではの特色であり、業界を越えての協力や情報の交換など、長い伝統と一体感の強さを感じさせられる例を数多く耳にしております。

歯科医師石桜会においても毎年総会を開催し、私も現職のころ幾度かお招きをいただきましたが、単に会議と懇親会で終わってしまわないように、最近は会員による講演や研究発表を実施し、多数の会員の出席を促すと共に、会員相互の研鑽を深め、時代に即応した技術知識の修得に努められているとお聞きしております。もって範とすべきことと深く敬意を表します。

創立三十五周年を迎えられた歯科医師石桜会の益々の発展を祈念してお祝いの言葉といたします。



記念誌発刊によせて

石桜同窓会（岩手中・高等学校）会長 小枝指 博

このたび、歯科医師石桜会が創立35周年を迎えられ、記念誌を発刊されるに当たり石桜同窓会（岩手中・高等学校）を代表いたしまして、お祝いの言葉を申し上げます。

何事にもあれ人が一事を貫いていくために、健全な身体を必要とすることは云うまでもないところですが、歯科医療は、その生きる力を支える大切な医療機関であります。歯科医師石桜会に於かれましては、永年にわたり、地域住民の健康維持増進のため各種事業を積極的に展開され、多大な貢献をされておりますことに、深甚なる敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

母校での3年間或いは6年間は、飛躍する青春の時期であり、人間形成の土台を築く貴重な時期を、創立者、三田義正翁の建学の理想である「石桜精神」「質実剛健」を礎に、変わることなく一貫して継承顕現してまいりました。

母校創立50周年記念式典が昭和51年11月3日に盛大に開催され、翌年4月15日深夜、母校に火災が発生し、輝かしい歴史を刻んだ校舎は木造のため火に弱く、体育館、講堂、図書館が残っただけで灰と化してしまいました。同年9月に地鎮祭を執り行い、1年間の建設期間で現校舎が誕生し、石桜精神は新しい殿堂を得て、新時代を切り開く大きな原動力となって今日に至っております。

昭和52年、歯科医師石桜会が、このような母校の歴史的な背景の中で誕生いたしましたことは、大きな意義があつてのことと推察いたしております。母校を中心に創立当初からの縦のつながりと、同期の横のつながりが、さらに有機的なつながりとなり、貴会におかれましても、120余人の会員の結集のもと強い絆で、地域社会や母校並びに石桜同窓会の発展に寄与して今日を迎えられました。

改めて、この度の創立35周年を心からお喜び申し上げます。
終わりに、平素より石桜同窓会の諸事業に対し、格別のご支援、ご協力を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして感謝申し上げ、この記念誌を手にとられる皆様方の益々のご発展とご健勝をお祈りして、お祝いの言葉といたします。

岩手中学・岩手高等学校の概歴

石桜精神

本校創立の大正時代末期は、薄っぺらで軽はずみな若者が多く見られ、これを憂えた創立者三田義正は、日本の将来を担う若者の育成は教育にありと、旧制岩手中学校の設立を決意した。

「岩手からも将来社会に役立つ有為の人材を生み出そう」というのが設立の主旨であり、盛岡の名勝「石割桜」にちなんだ不撓不屈、質実剛健の気風を表す「石桜精神」の涵養が、建学の精神となっております。

校訓



慶(よろこび)を積(つ)む
進路に適應した学力の充実(知育)



暉(かがや)きを重ねる
運動を通じての健全なる心身の錬成(体育)



正しさを養う
社会に適應できる常識の備わった人間の育成(徳育)

校章の由来



名勝「石割桜」は当校のシンボルである。創立者三田義正が若い頃、その盤根錯節の風姿より無言の教訓を汲みとり修養の糧にしたという故事にちなんだものである。よって岩手の岩の古字「崑」に桜花を配したもので、美術教師であった小笠原哲治の作である。

岩手中学・岩手高等学校の沿革 (抜粋)

- 大正15年 盛岡市大沢川原小路に旧制岩手中学校開校。
- 昭和2年 広島英雄、岩手中学校に赴任。ラグビーを体育の正課とし岩手県ラグビー発祥の地となる。

昭和4年 本県初のラグビー定期戦、岩手中学vs盛岡中学。

昭和4年 校旗樹立記念碑を岩手山頂奥宮前に建立。奉納碑文に曰く「皇風永扇校運隆昌」。

昭和13年 盛岡市仁王田圃340の1新校舎に移転。

昭和22年 新制岩手中学校の設立を認可。

昭和23年 新制岩手高等学校の設立を認可。(岩手県指令第276号)

昭和26年 創立25周年記念式典を挙げる。

昭和29年 学校図書館竣工し石桜図書館と命名。

昭和30年 第37回全国高等学校野球選手権大会出場。1回戦で法政二(神奈川)に3-0で勝利、2回戦では坂出商(北四国・香川)に1-3で惜敗。

昭和30年 水泳プール竣工し、岩手高等学校プールと命名。

昭和31年 岩手高等学校プール 日本水泳連盟により甲種競泳池として公認。(公認番号 第166号)

昭和46年 岩手中学校生徒の募集停止。

昭和49年 岩手中学校生徒募集を昭和49年度より再開。

昭和51年 創立50周年記念式典を挙げる。

昭和52年 歯科医師石櫻会発足、田中健一(新20回生)により名簿作りが開始。初代会長に金子康雄(旧17回生)が就任。

昭和52年 火災にて校舎消失。

昭和53年 新校舎竣工。

昭和62年 増設校舎、体育館、プールが竣工。

平成8年 創立70周年記念式典を挙げる。

平成12年 寄宿舎竣工。「石櫻寮」と命名。

平成18年 創立80周年を迎えた。

平成20年 併設型中高一貫教育校の設置が認可され、県内初の私立中高一貫教育を開始。

歴代学校長（敬称略）

歴代	氏名	就任	離任	在職年数
初代	鈴木卓苗	大正15年6月8日	昭和7年4月22日	5年10か月
学校長 事務取扱	三田俊次郎	昭和7年4月22日	昭和7年7月8日	3か月
第二代	栃内曾次郎	昭和7年7月8日	昭和7年7月12日	5か日
学校長 事務取扱	三田俊次郎	昭和7年7月12日	昭和8年3月31日	9か月
第三代	佐々木哲郎	昭和8年3月31日	昭和29年10月30日	21年7か月
第四代	山中順三	昭和29年10月30日	昭和48年7月3日	18年8か月
第五代	遠藤貫中	昭和48年7月3日	平成4年3月31日	18年9か月
第六代	西在家寛	平成4年4月1日	平成7年3月31日	3年
第七代	池口杜孝	平成7年4月1日	平成11年3月31日	4年
第八代	菊地治雄	平成11年4月1日	平成22年3月31日	11年
第九代	村井伸吾	平成22年4月1日		

歴代学校歯科医（敬称略）

氏名（卒業回）	就任期間
照井安彦（旧9回生）	～昭和52年度
村井俊弘（新17回生）	昭和53年度～平成元年度
村上修（新23回生）	平成2年度～平成24年度
赤坂俊彦（新30回生）	平成25年度～

歯科医師石櫻会の歩み

(新20回生) 田 中 健 一

私が開業（昭和52年）した時、当時の歯科医師石櫻会は組織だったものではなく、今は亡き金子康雄先生から指令がありまして、まず県内開業医（岩高OB）の名簿作成作りから始まったのが第一歩だったと思います。それまでは、岩中・岩高卒業の歯科医師が、一同に会したことはなく、これより以前には、川村陽一先生を中心とした不定期な集まりはあったと伺っております。

よってまず、私に名簿作成が一任されたことで、当時スギエデンタル専務の杉江宏司先輩にお願いして事務局になっていただき、卒業年度など、新20回生までの情報を把握しました。それから金子先生が、自ら指揮を執り会長に就任する旨の話があり、全員に声を掛け一同に会することになりました。市内材木町の料亭に、照井安彦、飯島 一、川村陽一、浅理克己、横矢久、吉島一郎、金子康雄、岡田宗二、村井俊弘、山田康平の各先生と杉江宏司氏と田中健一が参加したと記憶しております。

また、私が昭和52年に歯科医師会に入会した当時、照井、飯島、武田、吉島、横矢、金子、岡田の諸先輩が岩手県歯科医師会の執行部で、副会長、専務理事、常務理事、また支部の会長などの要職を務めておられ、足跡の残る素晴らしい業績を挙げておられていたことを憶えております。

その後、金子会長のもと、県歯の総会のあと、毎年市内の料亭で集まりをもち、何軒もはしごをして親交を深めたものでした。

会員が増えるにつれ、酒宴だけでなく、講演会を企画したこともあります。多い時には30名程の参加もありましたが、おおかたはただ集まって談笑するだけの会でしたので、年々参加者が減少してゆきました。このままでは歯科医師石櫻会の存在すら危うくなると思い、私の後に開業された村上修先生、小山田榮二先生にも加わっていただき、何回か会合を開き、会則等を決めました。

平成4年からは村井俊弘先生が会長となりました。金子先生は顧問に就任されておられましたが、村井会長が体調をくずされた後は会長代行を兼任され、岡田会長へバトンを渡されました。その後、学術的な面も充実させるために中野廣一先生にも加わっていただき、同窓会の支部登録も行い、毎年総会時に講演会を開催し、年1回の会報も発行するようになり現在の状況に至っております。

歯科医師石櫻会の概歴

※平成15年以前につきましては「歯科医師石櫻会の歩み」をご覧ください。

岩手県歯科医師石櫻会総会・小豆嶋正典教授就任祝賀会

(会長：岡田宗二)

開催日：平成16年11月25日

場 所：ホテル・ニューカーリーナ

平成17年岩手県歯科医師石櫻会総会・講演会・懇親会

(会長：岡田宗二)

開催日：平成17年6月18日

場 所：ホテル・ニューカーリーナ

講 師：小豆嶋正典 (新23回生)

演 題：「口腔癌のPET診断」

平成18年岩手県歯科医師石櫻会総会・講演会・懇親会

(会長：岡田宗二)

開催日：平成18年6月17日

場 所：ホテル・ニューカーリーナ

講 師：中野廣一 (新22回生)

演 題：「矯正治療のトラブルを未然に回避するには」
— 取り組みの難しい症例の見分け方 —

平成19年岩手県歯科医師石櫻会総会・講演会・懇親会

(会長：岡田宗二)

開催日：平成19年6月16日

場 所：ホテル・ニューカーリーナ

講 師：大平明範 (新33回生)

演題1：「口腔外科の立場からみた顎関節症」

講 師：渡辺充泰 (新22回生)

演題2：「口臭・・消臭から いい匂い」

平成20年歯科医師石櫻会総会・講演会・懇親会

(会長：横澤昭平)

※ 会の名称変更 岩手県歯科医師石櫻会 から 歯科医師石櫻会

開催日：平成20年7月12日

場 所：ホテル・ニューカーリーナ

講 師：村田昌明 (新24回生)

演題1：「卒後30年の臨床をふり返る」
— 長期経過症例から見えてくるもの —

講 師：國松和司 (岩手医科大学歯学部歯科保存学第2講座 教授)

演題2：「歯周治療の勘どころ」

平成21年歯科医師石櫻会総会・講演会・懇親会

(会長：横澤昭平)

開催日：平成21年6月20日

場 所：ホテル・ニューカーリーナ

講師1：岡村 悟 (新26回生)

演題1：「岡村歯科医院の臨床」

講師2：原田英光 (岩手医科大学歯学部口腔解剖第2講座 教授)

演題2：「歯科再生医療の現状と今後」
— 夢の歯の再生医療は実現するのか? —

平成22年歯科医師石櫻会総会・講演会・懇親会

(会長：山田康平)

開催日：平成22年6月19日

場 所：ホテル・ニューカーリーナ

講師1：徳富 亘 (新26回生)

演題1：「ヨコタデンチャーを見直して」

講師2：塩山 司 (岩手医科大学歯学部第2補綴学講座 前准教授)

演題2：「歯科材料の生体安定性」
— 歯科用金属によるアレルギー —

平成23年歯科医師石櫻会総会・講演会・懇親会

(会長：山田康平)

開催日：平成23年6月18日

場 所：ホテル・メトロポリタン盛岡

講師1：田中健一 (新20回生)

演題1：「東洋医学を取り入れた歯科治療の実践」

講師2：寺田林太郎 (JA秋田厚生連 平鹿総合病院 歯科医長)

演題2：「歯内療法の再考」

平成24年歯科医師石櫻会総会・講演会・被災会員を励ます会

(会長：山田康平)

開催日：平成23年6月16日

場 所：ホテル・メトロポリタン盛岡

講師1：大久保卓也 (新41回生)

演題1：「義歯長期経過に関する考察」

講師2：成石浩司 (岩手医大歯学部う蝕抑制学分野 准教授)

演題2：「沈黙の疾患歯周病を考える！」

平成25年歯科医師石櫻会総会・講演会・35周年記念祝賀会

(会長：田中健一)

開催日：平成23年6月29日

場 所：ホテル・メトロポリタン盛岡

講 師：近藤尚知 (岩手医大歯学部補綴・インプラント科 教授)

演 題：「過去の症例から学ぶ！ 失敗しない！ これからのインプラント治療！！！」

会 員 寄 稿

岡 田 重 治 (おかだ・しげはる)

新7回生 (S30卒)
1923 (S12年) 2/25生
日本歯科大学卒 (S35卒)
岡田歯科医院 開業 (S37, 盛岡市)



<高校時代>



<現 在>

<家族紹介>

妻と2人暮らし

東京に長男(皮膚科)、長男の妻、長男の子ども(息子1人、娘1人)

盛岡に次男(歯科医)、次男の妻、次男の子ども(娘2人、息子1人)

<近 況>

昨年11月ごろ、転倒し、第一腰椎を圧迫骨折し、現在コルセットをつけ自宅で療養中です。

<今後したいこと>

怪我が治ったら、金沢など北陸方面へ旅行に行きたいと思っています。

岡 田 宗 二 (おかだ・そうじ)

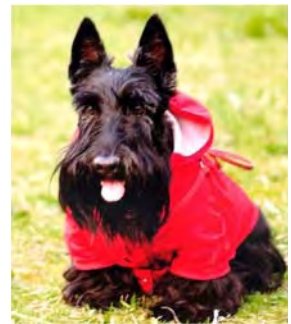
新8回生 (S31卒)
1936 (S11年) 10/7生
日本歯科大学歯学部卒 (S38卒)
岡田歯科医院開業 (S39.10, 盛岡市)



<ゴルフ仲間と>



<愛犬と共に>



<愛犬イライザ>

<家族紹介>

妻と二人

<近 況>

健康寿命を少しでも平均寿命に近づけたいと思っている今日この頃です。

<今後したいこと>

特にありません。

千代川 泰久 (ちよかわ・やすひさ)

新10回生 (S33卒)
1939 (S14年) 6 / 6 生
日本大学歯学部卒 (S42卒)



<高校時代>



<現在>

<家族>

妻・基子 (昭和24年3月31日生)

<近況>

平成12年3月 病気のため廃院し、現在に至っております。

日常生活はのんびり過ごし、インターネット生活です。

健康面では、緊迫感を持って病気が進行しないように頑張っております。

たまに、相撲や大学の運動部の優勝祝賀会等で上京するの楽しみにしております。

<今後したいこと>

今後は「行雲流水」の言葉の通り、空行く雲や流れる水のように、深く物事に執着しないで、のんびり生きたい思います。

横澤 昭平 (よこさわ・しょうへい)

新12回生 (S35卒)
1942 (S17年) 2 / 24 生
日本歯科大学卒 (S42卒)
横沢歯科医院 開業 (S47, 盛岡市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻

長男 嫁 女孫1 アメリカ在住

二男 嫁 男孫1 女孫1 盛岡市在住

三男 嫁 女孫2 福島市在住

<近況>

山に行きタラボに始まりナメコに終わる山菜採りと、風景写真撮りなど懲りずに続けています。

<今後したいこと>

自然の恵みに預かるだけでは悪いので、里山間伐ボランティア活動を積極的に続けたいと思っている。

山田 康平 (やまだ・こうへい)

新17回生 (S40卒)

1947 (S22年) 1 / 6 生

岩手医科大学歯学部卒 (S48卒)

山田歯科医院 開業 (S53, 盛岡市羽場)



<高校時代>



<現在>

結婚もした。子供三人、子供たちもそれぞれ独立し、また嫁いだ。孫三人。家も二軒建てた。庭いじり、家庭菜園も楽しんだ。夜の街でも飲み遊んだ。スキー、岩魚、山女など釣り、海釣り、マージャン、大学箱根駅伝のおっかけ、八甲田、秋田駒ヶ岳、八幡平、岩木山、北アルプスなどトレッキングも楽しんだ。旅行もあちこち行った。もういつ死んでもいいかなと思っていた。思っていたが……。二年ほど前、健康診査で頸部に影があり精密検査をしたほうがよいと言われ、近所の病院を紹介していただき個室に一日入院をした。夜、一人で横になっていると無性に寂しくなり、怖くなり、まだまだ死にたくないという気持ちが頭を占領し落ち込んだ。検査結果

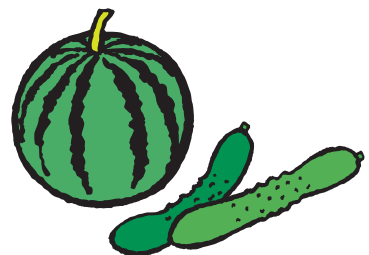
は下顎に装着している補綴物の影だった。一安心したがまだまだ人間ができていない、悟っていないと再び落ち込んだ。そうだ、こんなに楽しい人生を送ることができた妻、社会、地域、すべての人たちに恩返しはまだ残っていた。

もう少し長生きをして妻の為、地域の為、日本の為、そして世界の平和の為に生きようと思う今日この頃です。

追記

庭の花……バラ [メヌエット、ブルーライト、聖火、ゴールとバニー、清涼殿など25種くらい]、エンレイソウ、クマガイソウ、アツモリ草、ホトトギス、早池峰うすゆき草、礼文うすゆき草、桜、梅、かいどう、藤、どうだんつつじ、松、あやめ、白樺など45種くらい。私は見るだけ。

家庭菜園……きゅうり、ナス、トマト、苺、ピーマン、大根、ブルーベリー、スイカ、ネギ、白菜、レタスなど20種くらいの野菜畑に。私は食べるだけ。



米内 正 (よない・ただし)

新18回生 (S41卒)

1947 (S22年) 11/21生

岩手医科大学歯学部卒 (S47卒)

米内歯科医院開業 (S53年, 盛岡市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 眞知子

<近況>

診療後の散歩が楽しみです。

診療はメンテナンス中心に実施している。

<今後したいこと>

健康を維持し、無理のない診療を続けていくこと。

休日を利用し、日本各地の名所、旧跡を夫婦でゆっくり訪ねたい。

伊保内 利一 (いぼない・りいち)

新19回生 (S42卒)

1948 (S23) 12/21生

日本大学歯学部 (学26回卒)

伊保内歯科医院 (H16年父より継承)



運動会



古き良き時代

<高校時代♪>



<現在♪>

<家族紹介>

伊保内 利一 (64歳)

妻 啓子 (年齢不詳)

<近況>

体がガタガタ。自分のペースに合わせた診療をする日々。

引退の足音が聞こえてきそうな今日この頃です。

<今後したいこと>

一年かけて「世界一周の旅」 (夢のまた夢)

上 島 秀 一 (うえしま・しゅういち)

新19回生 (S42卒)
1948 (S23) 4 / 3 生
神奈川歯科大学卒 (S48卒)
上島歯科医院開業 (盛岡市)

<近 況>

わが近況

35周年、おめでとうございます。この35年の間に私は誠に申し訳ないことに、出席したのはわずかに数回の劣等会員ですが、末座におかせて頂き感射いたしております。

さて私の35歳の頃は夢と希望があり生意気ながら何んでも実現可能な気のする年代でしたし、世の中も今ほどは厳しくなかったと記憶しています。

現在はといえば四月がくれば65才と名実ともに老人の仲間入り、当然のごとく老眠・記憶力の低下、根気はなくなり当り前のことながら体力は落ちる一方で、黄昏時の直前といった現状です。

そんな私の太陽はご多分に漏れず二人の孫であります。ほぼ毎週、日曜日は遊びに来てくれるので、土曜の夜は恋人を待つ気分です。二人の笑顔をみる為には何んでも言いなりの絵にかいたような馬鹿ジイさんです。「今日もすごく楽しかった」と言ってもらえるのが最大の喜びです。

しかし、この最良の時間もあと一、二年。何時までもジイさんを相手にはしてくれまいし、またそれでは困ります。

この一、二年の間に人生を有意義に過ごす方法を考えねばと思う昨今です。明日は、待望の日曜日、まずは明日に思いを巡らせて、美味しい晩酌を頂き、二人の孫と目一杯遊んでから考えることにしたいと思います。

小 松 世 潮 (こまつ・よしお)

新19回生 (S42卒)
1948 (S23年) 9 / 10 生
日本大学歯学部卒 (S48卒)
歯科口腔外科 小松デンタルオフィス (S61, 盛岡市)



<現 在>

<家族紹介>

妻1人

<近 況>

2012年AAP(LA)の時の写真です。

<今後したいこと>

Singaporeに移住

小山田 榮 二 (おやまだ・えいじ)

新20回生 (S43卒)

1949 (S24年) 11/10生

東北大学歯学部卒 (S50卒)

小山田歯科医院 開業 (S57, 盛岡市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

- 妻 つね子 歯科医院の受付と経理と4人の子の母として我が家の要
- 長男 紘 福島県立医大眼科医
- 長女 朋子 2級建築士 3人の子育てに奮闘中
- 次男 晃 東北大学歯学部大学院
- 次女 陽子 仙台厚生病院勤務看護師

<近況>

開業して30年を超えて歯科衛生士も安定し、患者数の減少もあって、じっくり仕事ができるようになりました。次男が修業を終えて帰って来るまで、いやそれから仕事を楽しみたいです。

岩手県保険医協会の役員を続けてきましたが、昨年からは全国保険医団体連合会の理事として東京に出かけています。

長男にも子供が生まれ、4人の孫に恵まれました。次男も結婚し、残るは次女だけです。長女家族が盛岡に引っ越してきて、孫の世話を忙しく楽しんでいきます。

<今後したいこと>

患者さんと触れ合い、診療できる事が幸せなので、感謝しながら仕事を続けていきたい。

旅行が好きなので、夫婦でいろんなところに出かけたい。

田中 健 一 (たなか・けんいち)

新20回生 (S43卒)

1949 (S24年) 11/12生

岩手医科大学歯学部卒 (S49卒)

田中歯科医院 開業 (S52年)

医療法人尽誠会田中歯科医院開設 (H9, 盛岡市)



<高校時代>



<ザ・田中健一>



<歯学部3年生頃の長男崇一と>

<がちんこ勝負 遂にK0負けか? / 親子診療について>

原稿依頼があったときは、一度は断りましたが歯科医師石櫻会の大きな事業の一環として投稿をN先生からわざわざ電話を頂いたときに、自分の過去(会務歴25年)を振り返っての経験から、断らずに依頼を受けるのが当然なりとペンをとりました。

この原稿が会員の皆様のもとに届いたころは、元気に診療できる五体満足な状態になっていることを願うこの頃です。

実は11月5日午前2時頃帰宅時自宅前でタクシーから降りる際に、不注意にも転倒し道路縁石と私の右肘ががちんこ勝負し、K0負け。翌日大学時代の先輩であるA先生に電話依頼をし受診いたしました。

結果は右肘頭骨骨折にて入院手術の必要を宣告され都南の病院を紹介されました。10日入院し翌8日に全身麻酔の手術で、肘をL字型のチタンプレートと4本のボルトで固定しました。まるでインプラント4本の埋入オペに近い状態。麻酔覚醒後2日間は痛みで苦しんだものの、入院一週間で退院いたしました。現在は自宅にて療養中。全治3ヶ月と思われるが、今はリハビリ兼私自身休業中であり、かろうじて動く指でペンを走らせている状況であります。

さて、本題に戻りますが親子で診療することに関しては平成23年1月5日からスタート致しました。事前に話し合う時間もなく、ぶっつけ本番で開始するも、1週間たらずで折り合いが合わずバトル。親である私は、職場放棄をし、まる2日間診療せず、じっくりどうしたものかと考え悩みました。その結果やはりお互いに冷静かつ穏やかに話し合いをすることが必要であると思いました。私のゴールは自分自身の思いのままになる医院を作ることでしたが、そのことにこだわったために息子とやりあうことになりました。

社会の変化と共に歯科治療に対するニーズも一昔前とは大きく様変わりしており、歯科臨床は補綴中心の治療から予防中心の治療へシフトするだけでなく、さらに多様化が進んできています。インプラント治療、審美治療、アンチエイジング、高齢者医療、その延長として介護分野との連携による在宅歯科医療・・・etc。

いずれにしろ補綴専門である私は修復、補綴等の技量に長けており今までのわが道を歩んで来ましたが、近い将来息子が間もなく院長になる日は近いと思います。この世代の層は予防歯科医療の洗礼を受けており徹底した根管充填、インプラント、審美歯科、訪問診療の力量を身につけて10年目で親のもとに帰ってきたのです。

息子は父親と仲良く診療しているという言葉をお客様の前で言いきりましたので、これからはお互いがお互いを尊重し、反省し、感謝の念で自らを変えることから始めてみようと、心にいいきかせているのが本音です。

そのためには、目的、目標を共有し、互いに自由かつオープンに、自分の意思を伝達し合ってもストレスを抱えない、しこりを残さない対等な関係、パートナーシップを大切にしていこうと、気短な私に言い聞かせております。医院の継承を考える時、大切なことは、今、来院していただいている患者さんや、将来、来院するであろう地域の人々が求める歯科医療をどうすれば継続して提供することで、すこしでも進化することができればと思います。二代目が現在の地に根付く幸せが、親であり父としての本当の幸せであり、ゴールであることを信じて明日からまた頑張ろうとおもいます。



<ピカピカの岩手中学1年生>



<大学1年生 京都一人旅>



<初孫 初宮参り>



<長男夫婦>



<長女夫婦>



<次女夫婦>



<緩み過ぎのじじの顔、ひいばあも>



<一同で宮参り>



<乳母・・・じゃなく乳父>

中野 廣一 (なかの・ひろかず)

新22回生 (S45卒)

1952 (S27年) 4 / 1 生

岩手医科大学歯学部卒 (S51卒)

なかの矯正歯科 開業 (H11, 盛岡市)

<高校時代の写真>

生家(野田村)に置いてあった高校時代の写真アルバムが3.11の津波で失われてしまいました。

<現在の写真> 左から 息子、父、妻、私



<家族紹介>

東日本大震災の津波で家が全壊するも間一髪で奇跡的に助かった父(87歳)と妻と息子(岩手県立中央病院麻酔科勤務)。

<近況>

岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座に20年余勤務後、遅らせながら平成11年に盛岡市加賀野で矯正歯科専門で開業しました。ほとんどの患者さんが他院からの紹介の方であり、歯科医師石櫻会の先生方をはじめ関係する諸先生方に、この場をお借りして感謝申し上げます。

歯科矯正分野のことでは、平成22年に盛岡市での東北矯正歯科学会大会大会長を、日本矯正歯科学会では、平成18年から23年まで専門委員会委員を担わせていただきました。また、僭越ながら平成25年には東北矯正歯科学会から学会功労賞を頂戴いたしました。

家庭面では、最近の妻との会話は、食べること、テレビドラマのこと、旅行のことなど、いつも同じ話をしているような気もしますが、たわいもないことで笑ったり共感したりしながら、互いに毎日機嫌良く過ごせればよいかなと思っています。

座右の銘：至誠。愛は近きより。一日一生。

<今後したいこと>

とりたてて無いのですが、しいて言えば、微力ながら、小児の口腔機能の健全育成に努めたい。ひいては顎の発育不全や不正咬合の発症頻度を低下させたい。

これまで習得した矯正治療の技術や経験を後輩歯科医師に伝えたい。

60センチ以上のナメタガレイを釣ってみたい。

渡 辺 充 泰 (わたなべ・みつやす)

新22回生 (S45卒)

1951 (S26年) 7 / 5 生

岩手医科大学歯学部卒 (S54卒・9期生)

ハイコート歯科クリニック (H16年, 仙台市移転開業)



ハイコート歯科クリニック
院長 渡辺 充泰 (わたなべ みつやす)

<現 在>

<家族紹介>

妻

息子 2人ですが、今は妻と2人暮らしです

<近 況>

私も年をとり、患者さんも年をとり、でも患者さんは新しいものを(技術etc.) 欲しますが、体の変化は若い時と同じように考えていて、患者さんから突然トラブルと言う様になりつつあります。

以前より、行動半径が短くなりました。

<今後したいこと>

自分の技術etc. を求める若い先生方に残してゆくつもりです。

村 上 修 (むらかみ・おさむ)

新23回生 (S46卒)

1952 (S27年) 7 / 25 生

岩手医科大学歯学部卒

むらかみ歯科医院開業 (S55, 盛岡市)



<平成25年6月12日現在>

<高校時代の思い出>

諸事情により? 反省をした訳でもないのに頭を丸刈りにして、失意のなか岩手高校に入学、「こんな高校辞めてやる」と思いながらも、柔道も勉強も一生懸命にやる可愛いボンズでした。高校3年になると進路別にクラス替えがあり私立理系の3年D組を選択、このクラスの連中が楽しい奴らで、とたんに楽しい高校生活の始まりです。戸嶋先生に呼び出されて応援団の団長を拝命(断れる訳がありません)一高との野球の試合で大逆転負けしたのは、しっかり

応援しなかった「お前のせいだ」と謂れの無いお叱りを受けた事とか、〇〇女子高の可愛い彼女ができたとか、八幡町にくりだし泡の出るジュースを飲みすぎてトイレで沈没したとか・・・、ここでは書けない事とか・・・、楽しかったな～

<卒業～現在>

高校卒業後、又もや諸事情により仙台に1年間修業の旅に出て、翌年岩手医大歯学部にかろうじて入学、又懲りもせず柔道部に入り、そこで同窓の大先輩の赤坂俊夫先生に可愛がってもらい、後に仲人までしていただきました。

北日本医科歯科柔道大会では東北大歯学部から小山田栄二先生が少ない部員を引き連れて参加、岩手高校柔道部伝統の華麗な？内またで東北大のプリンスと呼ばれ大活躍していました（今じゃ誰も信じないと思うけど、本当ですよ）大学では、理工学の桂啓文先生、出来が悪くてすみませんでした。なんののかんのあったけど、何とか卒業して開業準備、山田康平先生にはスタッフともども御世話になりました。そして金子康雄先生、開業したばかりの頃から長い間御世話になり、歯科医師会の仕事、夜の八幡町の歩き方から大人の酒の飲み方まで、たっぷりと懇切丁寧に？夜中まで教えていただき誠にありがとうございました。

今ここで高校時代からの思い出や歩みを振り返ると、本当に多くの良い先輩に御世話になっていたのだと、改めて気づかされます。気がつけば私も会社員ならば定年の歳を過ぎ、歯科医師としての時間も少なくなってきましたが、あともう少し歩いてみたいと思います。愛されようとは思いませんし、良き先輩にもなれそうにありませんので、悪いジジイで生きてやろうと思います。

小豆嶋 正典 (しょうずしま・まさのり)

新23回生（S46卒）

1953（S28年）2／14生

岩手医科大学歯学部卒（S53卒）

岩手医科大学歯学部歯科放射線学分野



<学生時代の写真>

高校生時代の写真が見つからなくて、大学に入学しヨット部として活動していた時の写真を掲載しました。宮古湾にて毎週土日に練習しておりました。

<家族紹介>

妻と二人きりで暮らしております。長男は、一本木で歯科医院を開業、次男は市内の開業歯科に勤務しております。

<近況>

高校時代は、物理部に所属しており主にアマチュア無線の受信機や送信機を自作しておりました。この時の経験は大学に入ってから非常に役立つことになりました。歯学部を卒業して3年目に医学部の生理学大学院に入って研究生生活をしました。神経生理学の実験には電流の増幅器が必要なわけですが、実験に必要な小さなアンプの作成や、ワイヤーの半田付け、ノイズ対策など高校の時の知識・経験が大いに役立ちました。さらに教員になってからは、X線管球の構造やX線発生メカニズムなど放射線物理の学生教育にも役立たれております。きれいとは言えない物理部の部室での活動をなつかしく思っておりますし、感謝しております。

<今後したいこと>

学生に物事を教える立場になって30年になります
が、講義をするということは講義を受けることより
もずっと大変であることを身にしみてわかりました。
そんなことから、退職後は社会人大学などに入学し、
未知の科目を受講したいと思っています。

道 又 元 (みちまた・はじめ)

新24回生 (S47卒)

1954 (S29年) 1/11生

日本大学松戸歯学部卒 (H54卒)

道又歯科医院 開業 (H57, 宮古市)



なし (捜したけど)

<高校時代>

<現 在>

<家族紹介>

父 (陸軍士官学校在学中に終戦。H. 20まで内科医
院を60年に亘り開業。現在入院中。)

※元ボクサー 87歳

妻 (専業主婦)

長男 (歯科医師。岩手医大におります。)

次男 (専門学校生。盛岡在住)

長女 (保育士。同居中)

次女 (OL。東京在住)

<近 況>

震災発生からもうすぐ2年になりますが、あれ以
来夢中で突っ走ってきた感じです。仕事も、震災前
の状態にはちょっとまだ届きませんが、何とか頑張っ

ております。気がつけば我が町内の8割の家屋、住
民が消え去り、住宅の土台のみが延々と続く景色に
変わっていました。その土台も最近取り壊しが進み、
道路と更地のみののっぺりした異様な空間が広がっ
ています。魚市場との間の街並みが全て消えたので
海が異様に近く、停泊中の漁船の集魚灯の強烈な光
が直接医院の建物にあたります。海上からの強風も
直接もろに当たります。かつて絶対になかったこと
でした。数年後に高さ10.4mの防潮堤ができるそう
です。今度は海が見えなくなります。一体どんな街
になるのか想像が付きません。状況に応じて、臨機
応変に対処していく他はないでしょうね。

<今後したいこと>

バンド活動です。去年は、例年必ず行っているラ
イブが初めて中止になりました。メンバーの親の具
合が悪くなったのです。二十数年やっていて初めて
の中止でした。我がバンドのメンバーの半数が、寝
たきりの親を見ていたりそれに近い状況にあります。
そういう年代に差し掛かったということでしょうが
ないのでしょうか。

自分の健康にも気をつけて、バンドは死ぬまで続
けたいと思います。

村 田 昌 明 (むらた・まさあき)

新24回生 (S47卒)

1953 (S28年) 11/14生

日本歯科大学新潟歯学部 (S53卒)

村田歯科医院 開業 (H元年, 野田村)



<高校時代>

高校の時の写真がみ
つかりませんでした。
唯一あったのがムー
ビーにした画像から
ですので写りが悪い
ですが高校の学ラン
きて出た大学入学式
の写真です。



<現 在>

<家族紹介>

妻 明美

ミニチュアピンシャー6才 昔はメスでしたが今はオジさん化してます「妻も・・・」

チェ・ポッキー

” 3才 メス ソフィー
一男一女がいますが現在は東京で修業？中。

<近 況>

震災から2年目を向かえようとしていますが、これからが被災地は別な意味でいろいろと難関が待ち受けているように思います。ですが政治が悪い云々よりも独自で試行錯誤しながら、打開していかないといけないと思う今日この頃。最近ではデータベースソフトのファイルメーカーにはまっています。

<今後したいこと>

気力・体力が落ちないようにいつも何かにはまっていればいいですね。

中 村 行 寿 (なかむら・ゆきひさ)

新25回生 (S48卒)

1955 (S30年) 11/17生

東北歯科大学歯学部卒 (S54卒. 現奥羽大学)

中村歯科 (滝沢村)



<現 在>

<家族紹介>

妻、娘二人

<近 況>

早めに仕事を辞めてゆっくりしたいと思いますが現状は厳しいです。

<今後したいこと>

妻と二人でゆっくり旅行でもしたいです。

岡 村 悟 (おかむら・さとる)

新26回生 (S49卒)

1955 (S30年) 5/10生

岩手医科大学歯学部卒 (S55卒)

岡村歯科医院 開業 (H6, 盛岡市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 54歳
長男 24歳
長女 22歳

<近況>

昨年は大分身体の調子を崩してしまい、病院通いをしました。

現在は仕事と治療に集中するために勉強や講習会、会合などはお休みにさせてもらっています

<今後したいこと>

患者さん始め、周りの皆さんに迷惑をかけないように自己管理に努めたいと思います

志 和 敏 (しわ・ひろとし)

新26回生 (S49卒)

1955 (S30年) 6 / 4 生

日本歯科大学新潟歯学部卒 (S57卒)

湯田歯科医院 開業 (S58, 旧湯田町、現在西和賀町)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 (53才)
長男 (28才) 千葉県東金市在住
次男 (25才) 二戸市在住

<近況>

高校時代の写真をさがしていたら、唯一、高2 (17才) の時、盛岡レンズセンターのテレビコマーシャルに出た時の写真が見つかりました。あれから40年、もう57才 (いやまだまだ57才) になりました。ずいぶん年取ったなあ。

正月休みで、2キロほど体重オーバーしたので、5月の大会までに減量しなければならないと思っています。

<今後したいこと>

生涯現役を目指し、日々研鑽に努めること。年に数回、5キロのマラソン大会に出場しています。できれば2年以内に10キロを走りたいと思っています。



徳 富 亘 (とくとみ・わたる)

新26回生 (S49卒)

1954 (S29年) 3 / 15生

神奈川歯科大学歯学部卒 (S55卒)

徳富歯科医院継承 (H3, 花巻市)



<高校時代>



<現 在>

<家族紹介>

母：城 (83歳)

妻：順子 (58歳)

長男：文彬 (30歳) 神奈川歯科大学大学院4年生

長女：琴子 (25歳) 明海歯科大学研修生

家猫：チャー、クー、ユキ

<近 況>

2年前に大病を患い、約半年間の入院生活を行いました。医院を再開してから1年半が過ぎました。

なんとかかんとか、やっておりますが、なかなか以前のようにいかずに苦勞しておりますが、大学院4年生の文彬が時々帰省し、一緒に仕事を手伝ってくれているので、非常に有り難く、助かっております。

<今後したいこと>

やり残した事はありません。

八重樫 良 昌 (やえがし・よしまさ)

新27回生 (S50卒)

1956 (S31年) 4 / 21生

北海道医療大学歯学部卒 (S60卒)

八重樫歯科医院 (平成元年, 岩泉町)



<現 在>

<家族紹介>

妻 裕子

母 フミ

犬 ロミオ (チワワ)

<近 況>

平成24年12月、暮れの忙しい時に個別指導で東北厚生局岩手事務所の女性技官と初対面。

また、長い間の不摂生から糖尿病となり、ほっておいたら手足にしびれが出てきました。これは一生治らないらしい。薬づけの毎日。

平成25年は東日本大震災からの復興元年と言われ、また、長い長い不況にも歯止めがかかり、少しでも景気回復してくれればと望んでいる今日、この頃です。

また、iPS細胞を使って再生医療として糖尿病とその合併症を治す治療法を期待している。

<今後したいこと>

連れ添って25年間、苦勞をかけたので、旅行へも連れていかなかった妻と一緒に、日本から海外まで、ちょくちょく温泉めぐりやら、多いに旅行をしたいと思う。

赤坂俊彦 (あかさか・としひこ)

新30回生 (S53年卒)
1959 (S34年) 5/21生
奥羽大学歯学部卒 (S59卒)
赤坂病院勤務



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 季美 51歳
長男 俊介 24歳 ー大學生生活をエンジョイしているようー
長女 采香 20歳 大学3年生
次女 シンディ13歳 ミニチュワ ダックスフントー

<近況>

三ッ割町内会成年部長
仁王地区社会福祉協議会 成年部長
盛岡八幡宮崇敬会成年部長
盛岡市消防団第6分団員
地域に貢献しております

<今後したいこと>

震災後、波乗りをしていないので、今年は是非…。
それから、そろそろ愛しい妻と旅がしたい
長年の償いの意味を込めて (笑)

立花透 (たちばな・とおる)

新30回生 (S53卒)
1959 (S34年) 2/10生
岩手医科大学歯学部卒 (S60卒)
立花歯科医院開業 (H3, 秋田市)



<現在>

<家族紹介>

妻・歯科医師
子供3人 (男子2・女子1)・大学生と高校生

<近況>

本業は暇ですが、歯科医師会の雑用などで忙しい日々

<今後したいこと>

禁酒 (無理だろうけど)

柳 澤 泰 (やなぎさわ・ゆたか)

新31回生 (S54卒)

1961 (S36年) 3 / 4生

岩手医科大学歯学部卒 (S63年卒)

やなぎさわ歯科クリニック開業 (H6年, 盛岡市)



<愛ネコ>



<現 在>

<家族構成>

妻1人、娘1人、猫1匹

<近況>

歯科医師会の役員や、支払基金の審査員など、本業ではない方が忙しく、本業はぼちぼちでんな～

<今後したいこと>

家族皆が健康であれば、何も言う事無し!

久保田 仁 恒 (くぼた・じんこう)

新32回生 (S55卒)

1961 (S36年) 6 / 26生

岩手医科大学歯学部卒 (H元年卒)

くぼた歯科医院開業 (H5, 仙北市田沢湖町開業)



<高校時代・和義先生と>



<現 在>

<岩中・岩高時代>

私はS. 55年卒新32回生の秋田県仙北市田沢湖で開業している久保田仁恒（じんこう）と申します。

平成5年開業で、今年の6月26日（私の誕生日）でちょうど20年になります。

私は岩中の再募集の第1期生で当時1学年8人でした。担任は池口先生で、よく悪いことばかりして精神棒でケツをはたかれました。高校は無試験でパスしてラグビー部に所属していました。

久保田家はラグビー一家でして、父の了康は新日鉄釜石ラグビー部のV7時代に県のラグビー協会の副会長をやっていました。叔父の昭は岩中→日大でオールジャパンで桜のジャージを着てスタンドをしていました。弟の文彦（ふみひこ歯科院長）は花園予選でベスト4まで行きあと一歩でした。

当時はCブロックに降格したりBブロックに昇格したりでいまひとつでしたが、この頃の経験は社会に出て心強いものになっています。

<趣味・近況>

趣味はアウトドア系で夏はジェットスキー、冬はスノーモービルでモービルはインストラクターの免許もあります（たいしたことないですが）。ジェットスキーは5年くらい前に止め、そのかわりマラソンにはまりチームテヅ（熊谷哲也会長）に所属し昨年念願だった100kmマラソンを完走しました。ホノルルにも2009、2010、2012と参加しました。スタートは朝5時で花火とともに街中を走り出しクリスマスのイルミネーション、ハイウェイ、ホノルルの美しい海を眺めゴールします。外人の方たちとも仲良くなれます（写真参照）。

なかなか歯科医師石櫻会の行事に参加できませんが、そろそろ参加したいと思います。

歯科業界も年々厳しくなっていますが、60歳まで頑張っていきたいと思います（長男がまだ岩手医大歯学部2年なので）。

この会員寄稿の機会をくださった諸先輩先生方に感謝します。

大 平 明 範 （おおひら・あきのり）

新33回生（S56卒）

1962（S37年）10/6生

岩手医科大学歯学部卒（H2卒）

秋田厚生連 雄勝中央病院勤務



<現 在>

<近 況>

外来、入院患者さんを含め、日々忙しく診療に励んでいます。

<今後したいこと>

ダイエットしたい。

竹 田 浩 人 （たけだ・ひろと）

33回生（S56卒）

1962（S37年）8/22生

岩手医科大学歯学部卒（H5卒）

タケダ歯科AKITAインプラントクリニック開業（H10、秋田県大仙市）



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻：由加（年齢は秘密だけど同い年） 夫婦生活17年、手のひらで転がされております。

長女：梨乃（13歳、中学1年生） 40分で1,5kmほど泳いでいます。

次女：紫乃（10歳、小学4年生） お姉ちゃんよりおっきくて柔道着がよく似合いそうです。

スパンキー（17才）、タルガ（13才）、カレラ（10才）、ディトナ（5才）、モデナ（5才）

カミさんが猫アレルギーのため、ワンちゃんのみとなっております。

<近況>

数年前にインプラントセンターを増設し、ライブオペが出来るエデュケーションルームで年に2, 3回のセミナーを開催しております。(By Nobel Biocare Japan) (All on 4)

運動といえば夏は草刈り、冬は雪かきで定期的に肘を壊しております。

<今後したいこと>

ご紹介させていただいたとおり、娘2人なので残念ながら岩手高校とも疎遠になると思われま

す。また、娘が良い跡取りを連れてくるとも限りませんので、後進の指導に力をそそぎ、地域医療に貢献できる若手を育てていければと考えております。

関 克 典 (せき・かつのり)

新34回生（S57卒）

1964（S39年）2/28生

岩手医科大学歯学部卒（H元年卒）

関歯科・口腔医療クリニック開業（H15、盛岡市）



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻：Rebecca

長男：真人（岩手高等学校2年）

次男：真範（盛岡市立北稜中学校1年）

三男：真貴男（盛岡市立城北小学校4年）

<近況>

平成25年5月8日で開業10年目を迎えることができました。周りの方々にお世話になりながら、なんとか日々の診療を継続しております。最近では診療室を飛び出して訪問診療にも力を入れ悪戦苦闘しております。

継続と忍耐！

<今後したいこと>

継承と発展！

現在開業している建物の有効活用をし、いずれ次の世代へと継承できるようにして行きたいと思っています。

亀田幸宏 (かめだ・ゆきひろ)

新35回生 (S58卒)

1963 (S38年) 11/16生

岩手医科大学歯学部卒 (H2卒)

亀田歯科医院開業 (H15, 盛岡市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 (45歳)

娘 (10歳)

<近況>

開業して8年経ちましたが、まだまだ経営という

面では未熟です。

写真では、高校時代と比べると見る影も無く、悲惨になっています。

このころはマスコミ志望で、よもや歯医者になるとは思っていませんでしたが、今となっては親の深い考えのおかげかと思っています。その親父も去年の3月に亡くなりましたが、親が今の自分の年(50歳)にどのようなことを考え、行動していたかをついぞ聞く機会がありませんでした。

もともと、家では無口な人間でしたから聞きづらかったのですが、その轍を踏まないように、自分の子供とはきちんと向き合って話をしてゆきたいです。

<今後したいこと>

20代のころはバイクに乗っていたのでまた乗り始めたいです。

家内には猛反対されるかと思いますが……。海釣りもしばらくしていませんので行きたいです。

<最後に>

今回記念誌編集に携わりましての感想をひとつ。もう皆さんにはお詫びの言葉しかありません。

私のペースの遅さに、小山田先生や中野先生にはひやひや、イライラさせる思いばかりさせてしまい、本当にすみませんでした。

えっ……。何ですか、「そんなこと全然思っていないだろっ!」、「神妙なフリするな!」って?

いやいや、そこが岩高生ですよ。

社会人になって、まっとうになった方ばかりでは、岩高っぽくないでしょ。

共感した方は「いいね!」を押してください。

あっ……。ボタンが無いが、失礼!

青木 修治 (あおき・しゅうじ)

新36回生 (S59卒)

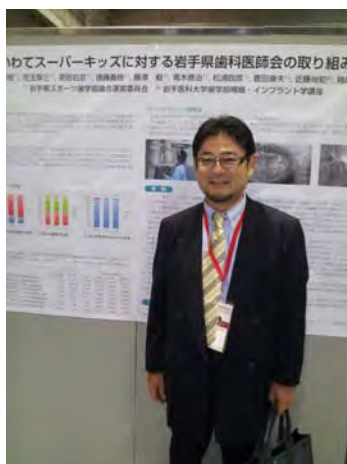
1965 (S40年) 5 / 2 生

岩手医科大学歯学部卒 (H3卒)

アオキ歯科医院開業 (H6, 八幡平市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 : 一人 (歯科衛生士)

長男 : 潔央 (H8生 : 高校生) 硬式野球部

長女 : 咲里央 (H10生 : 中学生) 軟庭部・陸上部

<近況>

ここ数年は子供等の部活動の追っかけに勤しんでおります。

もっぱらFBとブログ更新に勤しんでおります。

<今後したいこと>

医院のリフォーム

引退して悠々自適な生活

一戸 晃 (いちのへ・あきら)

新37回生 (S60卒)

1967 (S42年) 2 / 3 生

岩手医科大学歯学部卒 (H4卒)

一戸歯科クリニック開業 (H9, 八幡平市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 : ユミコ

長女 : アヤノ

長男 : リョウゴ

犬 : シンゴ

<近況>

大好きなタバコでしたが、2013, 1, 26なぜか止めました。

<今後したいこと>

アップライトベースというやつを、もう少し上手になりたい。

小田島 右門 (おだしま・うもん)

新38回生 (S61卒)

1967 (S42年) 7/30生

岩手医科大学歯学部卒 (H4卒)

右門歯科クリニック 開業 (H7, 二戸市浄法寺町)



<現在>

<今後したいこと>

歯科医になって20年経ちました。

細く長くこの仕事を続けたいと思います。

久保田 文彦 (くぼた・ふみひこ)

新38回生 (S60卒)

1967 (S42年) 6/27生 (深田恭子と同じで~す)

岩手医科大学歯学部卒 (H5卒) ←何だか1年合いませんが気にしないで下さい。

ふみひこ歯科医院 開業 (H15, 盛岡市)

<家族紹介>

妻 奈穂子 (20歳←という事にしないと私の命が危ない)

長男 了太 (8歳)

長女 莉湖 (1歳)

BERRY(10歳のラブラドル)

<近況>

1 平凡な毎日を過ごし、一步一步 あの世へ近

づいております。

2 遠野の友人が立ち上げたProjectNextという沿岸の支援団体の微々たるお手伝いを少しだけさせて頂いております。

3 去年 岩手高校ラグビー部OB会をOB皆様の多大なご協力で立ち上げる事が出来ました。

以下 2枚は設立総会 OB戦及び「OBが現役にラグビーのいろはをご教示頂く会」の写真です。



<今後したいこと>

みんなと仲良く日々平凡でも楽しく過ごしたいです^^

熊谷 哲也 (くまがい・てつや)

新40回生 (S63卒)

1969 (S44年) 7/6生

岩手医科大学歯学部卒 (H6卒)

くまがい歯科クリニック開業 (H10, 盛岡市)



<高校3年生>



<現在>

<家族紹介>

妻 章子 (43歳 岩手医大歯学部口腔外科勤務)
 番犬 タロウ (12歳 柴犬 ♂ 尻尾を振りながら
 咬みつきます)

<近況>

8年前から健康のためジョギングをしています。
 ジョギングが高じて何時しかマラソンになりました。
 ハーフマラソン (21.09km) から始まり、まさかの
 フルマラソン (42.195km)。そして禁断のウルトラマ
 ラソン (100km) へと。健康のために始めたはずのジョ
 ギングが、今では健康を害するマラソンになりつつ
 あります。どっぷりとマラソンにハマってわかった
 こと、ハーフも、フルも、ウルトラも、結局のところ
 ゴールまでの辛さは一緒であります。そしてGOAL
 後に流し込むビールの旨さはいつも格別であります
 (それを味わいたがために走っているようなもの
 です)。

<今後したいこと>

生涯スポーツとして健康に良いマラソンを続けたい
 と思います。(が、今年は日本のウルトラマラソンの
 発祥サロマレース (7月北海道)、近年中にイスタ
 ンブールフルマラソン (11月トルコ) に参加したい
 と夢見ております)。

夏はオートバイにテントを積んで北海道を旅する
 ことを続けたいと思います。

美味しいお酒、美味しい肴にこだわり続けたいと
 思います。

患者さんと共に歳を重ね、まだまだずっと細く長
 く歯科医療に従事し続けたいと思います。

西郷 史郎 (さいごう・しろう)

新40回生 (S63卒)

1969 (S44年) 5 / 25生

岩手医科大学歯学部卒 (H6卒)

西郷歯科医院 (H11, 盛岡市)



<高校時代 (写真がないので卒業アルバムから)>



<現在 (2012. 12月)>

<家族紹介>

記念誌が出るころの家族にメッセージをこめて!?

妻 祐子 (??歳) ラブラブ中年夫婦で頑張っ
 ています。

長女 華菜 (大学1年の予定H25年度) 大学生活
 をおこなっているかな!?

長男 清之介 (岩高3年の予定H25年度) ギター
 まだ、やっているかな!?

次男 純之介 (高校1年の予定H25年度) 岩高生
 になっている!?

三男 優之介 (小学4年の予定H25年度) スポ少
 (野球) 頑張れ!!

<近況>

家族そろって (長女以外?) の巨人ファン、日本
 一になった2012年はファンフェスタと優勝パレード
 を見に行きました!!

野球は続けていますが、バイクとアイスホッケーは休止中!?!です。

<今後したいこと>

H25年12月には結婚20周年。奥さんと2度目の伊太利亜に行こうと計画中!?

波 紫 修 一 (はし・しゅういち)

新40回生 (S63卒)

1969 (S44年) 11 / 5 生

岩手医科大学歯学部卒 (H6卒)

はし歯科こども歯科 開業 (H16, 盛岡市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻：亜樹子 (歯科医師) 長男：和也

<近況>

開業8年を超えやっと少し落ち着いてきました。子供も3歳になり会話によるコミュニケーションをとれるようになり、いっぱい話をしております。独身時代よりもゴルフの実力が落ちてしまったので、

競技ゴルフへの復活をめざして、木曜日は家族サービス、日曜日はゴルフという生活を妻に認めてもらいスポーツ中心の生活をしている今日この頃でした。

<今後したいこと>

開業10年目までには、歯科医院スタッフを旅行につれていけるようになり、院長の価値を高めたい。

(当歯科医院では同性の歯科医師の妻の方が人気あり、とほほ。)とはいえ学術で尊敬を得られるように頑張りたい。

村 木 崇 (むらき・たかし)

新40回生 (S63卒)

1969 (S44年) 4 / 9 生

岩手医科大学歯学部卒 (H6卒)

ムラキ歯科クリニック開業 (H14, 岩手町沼宮内)

ショートステイ姫神の森 開設 (H22, 盛岡市玉山区)



<現在>

<家族紹介>

妻：昌美
長男：泰斗
二男：奎太
長女：奏心
母：ミチヨ

<近況>

趣味はなく、毎日仕事に追われています。子供達も大きくなり、受験の世代になって心が痛いです。40代になり、心と身体の低下を目の当たりにする

日々です。これからも家族全員で楽しく、健康に暮らしていきたいです。

<今後したいこと>

子供たちが成人したら第二の人生を送りたいです。それまでもう少し辛抱して、自分の趣味を見つけないと思います。



大久保 卓也 (おおくぼ・たくや)

新41回生 (平成元年卒)
1970 (S45年) 7/10生
岩手医科大学歯学部卒 (H8卒)
大久保歯科医院 開業 (H24, 盛岡市)



<現在>



<家族旅行@沖縄 2012.10>

<家族紹介>

妻・長男 (10歳)・長女 (6歳) と4人家族
隣家にはまさしく「スープの冷めない距離」に両親が住んでいます。

<近況>

平成8年に岩手医科大学卒業後は田中久敏教授に師事、岩手医科大学歯学部歯科補綴学第1講座に入局しました。大学では主に4・5・6年の講義および基礎・臨床実習と臨床研修歯科医師の臨床研修に携わりました。約15年間在籍した大学を平成24年9月退職し、同年11月生まれ育った地で開業しました。高校時代は軟式テニス部に所属していました。タイガースカラーのビニールテープで補強された『精神注入棒 (って言うんですかね)』で頭をコツコツと連

打されながらご指導頂いた村上照五郎先生の怖さは未だに記憶に残っています。大学に進んでからもテニスは続けましたが、歯科医師になってからは運動から遠ざがり、見事な中年体型を維持しています。

これまで義歯補綴学を主として歯科医療に従事してきました。大学では専門性に分かれることにより他科歯科医師と連携を組んで歯科医療に従事してきました。今後はスタッフとともに一人一人の患者に向き合い適切な医療を提供し、患者さまの健康管理の一助になればと思っています。

<今後したいこと>

若い頃、長期出張に行っていた秋田で大型バイクの免許を取得しました。免許を取って15年ほど経ちますがほとんどバイクに乗っていません。これまで趣味を持ったことはないのですが人生の第2ステージをきっかけにバイクを趣味にしようかと思っています。まずは貯金から始めなければなりません……。



関根 元 (せきね・げん)

新43回生 (H3卒)
1972 (S47年) 4/20生
岩手医科大学歯学部卒 (H9卒)
せきね歯科医院 開業 (H19, 九戸郡洋野町)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

妻 裕子

長男 健太 4月から小学校五年生

長女 沙英 4月から小学校四年生

<近況>

開業して丸六年経過、今年厄年。

盛岡八幡宮にてお祓いを受けるも、当日ノロウイルスに感染。

改めて厄年の恐ろしさを知る。

<今後したいこと>

家の増築、あるいは新築。

亭主関白(なりたい)。

歯科医師野球大会で優勝、あるいは二日目に残る。



<現在>

<家族紹介>

募集中です。

<近況>

現在、岩手医科大学歯学部齲蝕治療学講座に在籍しております。

田 中 俊 (たなか・すぐる)

新45回生(H5卒)

1974(S49年)7/30生

岩手医科大学歯学部卒(H13卒)

両川歯科医院 父の下で勤務医(H17～, 遠野市)



<58kgの高校時代>

岡 田 伸 男 (おかだ・のぶお)

新44回生(H4卒)

1973(S48年)12/2生

岩手医科大学歯学部卒(H10卒)

岩手医科大学歯学部第一保存科 助教(H14)



<過去>



<74kgの現在>

<家族紹介>

父、妻、息子二人（5才、2才）

<近況>

震災後、私の家の裏に被災者の方の仮設集合住宅が出来ました。私にとって復興支援への気持ちが風化しないいい距離感を与えてくれています。予定がつかない方、新たな出発をされる方、たくさん診てますが、一人の歯科医師として誠心誠意関わっていくつもりです。

毎年、欠かさず家族で大好きなディズニーランドに行ってます。夢の国は全てをリフレッシュさせてくれます。今後も息子たちが許す限り行きたいと思っております。

<今後したいこと>

大好きな熱帯魚鑑賞が震災により水槽が壊れ、無残にも応接室がジャングルの沼化してしまいました。カーペットを張り替える程の大事になったので、しばらく家族の顔を伺いながら落ち着いたらまたこそつと大きな水槽を買い直して再開したいです。一昨年、タバコをやめた途端、体重増加に歯止めが効きません。

少しダイエットを考えて戦力として、釜遠フェニックス野球の復興支援に役立ちたいと思っております。また諸先輩にならい、歯科医師石櫻会の一員としても今後は微力ながら携わっていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。専門は、保存修復、歯内療法学です。

<今後したいこと>

考え中ですが、一度は温かい所（沖縄やハワイなどの南国）で、生活してみたい。

平井彦和（ひらい・よしたか）

新45回生（H5卒）

岩手医科大学歯学部卒（H11卒）

ちば歯科クリニック・フォレスト歯科 勤務(宮城県)



<高校時代>

<近況等>

平成5年岩高卒 平井彦和です。

歯科医師石櫻会35周年記念誌の原稿を送付させていただきます。

「平成5年岩高卒の平井彦和です。平成11年岩手医大卒業後、岩手県立中央病院、国立仙台病院（現仙台医療センター）で研修医として勤務。

現在は宮城県登米市のちば歯科クリニック、名取市のフォレスト歯科に勤務しております。高校時代は野球部、大学でも準硬式野球部に所属し、現在は、二人の息子とともに仙台のリトルリーグ、宮城野リーグで世界を目指し、奮闘中です。」

「高校時代の写真は、夏の選手権岩手県大会の開会式。プラカードを持って先頭にいるのが私です。37年ぶり（当時）2度目の甲子園出場はなりませんでした。（ということは、もう60年近くも甲子園に行っていないことになります。）」

近藤 聡 (こんどう・さとし)

新46回生 (H6卒)

1974 (S49年) 8/10生

岩手医科大学歯学部卒 (H15卒)

清水町デンタルクリニック開業 (H24, 盛岡市)



<高校時代>



<現在>

<家族紹介>

近藤 聡 (本人)
純世 (妻)
佑愷 (長男)

<近況>

H24年4月に開業しました。

岩手高校に電話して、自分が第何期卒業なのか問い合わせしました。

<今後したいこと>

家族で世界旅行に行きたいです。

田中 崇一 (たなか・しゅういち)

新47回生 (H6卒)

1977 (S52年) 2/26生

岩手医科大学歯学部卒 (H13卒)

H13 岩手医大歯学部病院障害者歯科センター入局

H14医) 能代歯科医療会鈴木歯科勤務

H15医) 裕美会門司歯科勤務

H16医) 善歯会ラムザ歯科勤務

H19医) 恵桜会ひまわり歯科クリニック院長

H22医) 尽誠会田中歯科医院勤務



<現在>



<高校時代>

<家族紹介>

妻 (3月に娘が生まれる予定です)

<近況>

臨床研修指導医を昨年取得し、本年度から研修施設として診療することになりました。

なにもできなかった頃の自分を思い出しつつ、基本的な治療を指導しまた若手に見られることで自分が変な治療をしてないかなと再確認できるという点で互いにメリットが得られるだろうと楽しみにしています。

<今後したいこと>

ゴルフ
役満あがる
インプラント認定医

佐藤 史 尚 (さとう・ふみたか)

新49回生 (H9卒)

1979 (S54年) 9/24生

岩手医科大学歯学部卒 (H15卒)

佐藤歯科医院 継承 (H19, 八幡平市)



<現在>

<家族紹介>

妻、長男 (4歳)、長女 (1歳) の4人家族

<近況>

父から医院継承して5年が経ちました。

<今後したいこと>

家を建てる



<現在>

<家族紹介>

祖母、城
父、亘
母、順子
妹、琴子

<近況>

今年の春に大学院を卒業し、実家の花巻に戻ってきました。現在は父のもとで臨床医として修行中です。

父のもとで勤務するのは、歯科医師として非常に成長することができるのですが、岩手に帰ってきて大好きな波乗りが出来なくなってしまった事がとても残念です。夏はスケボー、冬はスノボでなんとかごまかしていますが、そろそろ限界なので2週間ほど休みをもらって海外にいきたい今日このごろです。

徳 富 文 彬 (とくとみ・ふみあき)

新53回生 (H12中退)

1982 (S57) 12/14生

神奈川歯科大学大学院卒 (H25卒)

徳富歯科医院勤務 (H25, 花巻市)



<高校時代>

<今後したいこと>

- 1に勉強
- 2に波乗り
- 3、4がなくて
- 5に結婚



東日本大震災被災会員からのメッセージ



(新10回生) 千代川泰久

「瓦礫の町から新緑の町に」

平成23年3月11日午後2時45分ころ突然大きな地震が起り、停電でテレビも映らず、ラジオの津波警報を聴き、妻と一緒に3階屋上に避難したと同時に、津波は我々の3メートル下を直撃し、周りの家々は一瞬に流され、その迫力は言葉に表せないくらい恐ろしいものでした。

また、火災が発生し次々と家が燃え町が火の海となり、その恐怖で眠れない一夜を過ごし、翌朝、二人で避難所に向かいました。

その途中の光景は戦争映画の爆撃後のようで、我が目を疑うような壮絶な光景でした。

避難所は多くの被災者と安否を尋ねてやってくる人々でごった返していましたが、皆まとまり、互いにいたわり合いながら過ごしていました。

この震災で我が家は1、2階は破壊されましたが、偶然にも3階が残りましたので、3日後には避難所を出て3階に妻と二人で住みましたが、電気と水のない生活で、最初は大変でしたが2ヶ月後には慣れました。

毎朝、3階から見える光景は瓦礫の焼け野原で、早く緑の多い静かなところに住みたい日々でした。

津波が襲った数日後、軽井沢の上原康恒君（プロボクシング元世界王者Jライト級チャンピオン）より、無事を確認すると同時に「こちらから迎えに行くから軽井沢に来てください」との電話があり、過分なお心配りには、励まされるとともに大変嬉しかったです。

震災から2ヶ月が過ぎましたが、危険区域に建つ我が家ですが思い出多い家ですので、改築（再建）することに決め、工事期間中の3ヶ月間を一時避難場所として軽井沢の上原ご夫妻にお願いしたところ

気持ちよく快諾してくれました。

瓦礫と異臭のする被災地を立ち、5月29日に軽井沢に着き当日はあいにくの雨でしたが上原ご夫妻の心のこもった暖かいお世話に感謝するとともに私たちの心は快晴でした。

翌日の軽井沢の光景は新緑が美しく、空気も、近景も遠景も全て新鮮で、二日前までの瓦礫の中で住んでいた私たちにとってはまるで別世界でした。

以後、緑美しい木々と野鳥の歌声に癒されながら、自然美豊かな癒し系スポットが点在する軽井沢で芸術と音楽鑑賞に浸ったり、ショッピングとグルメを楽しみ、幸せな日々を送らせていただきました。

また、軽井沢ではベストセラー作家や財界・芸能界の著名人と出会い交流し、いろいろなことを学びすばらしい体験をさせて頂き、上原ご夫妻はじめ軽井沢の皆さんの暖かいお世話には心から厚く感謝しております。お陰様で何とか自宅の改築も終え、故郷山田で新たな一歩を踏み出せるようになりました。

ここまで来られましたのも皆様の温かいお支えがあったからのことと心から感謝し、強く温かくて、優しい山田の復興を願い、焦らずゆっくりと歩を進めて参りたいと思います。（宮古歯科医師会 会誌「藍青」第25号より転載）





「東日本大震災を体験して」

(新23回生) 伊藤 篤

3月11日の東日本大震災から、早いものでもう2年目を迎えようとしています。

地震直後に発生した未曾有の大津波により、私の歯科診療所は背の丈ほどまで浸水し、すべてが破壊され、見るも無惨な姿となってしまいました。父の代から50年余り、地域の皆さんに支えられてきた診療所ではありましたが、現在、建物は取り壊して更地となりました。今もその前を通るとやるせない気持ちに襲われます。ただ、幸いにも従業員全員すぐに避難し無事であったこと、妻の診療所は津波の被害に遭わなかったことから、現在は妻の診療所で共に診療にあたっております。

被害に遭った診療所の周りの家々も、多くが取り壊しとなり、すんでいた人たちも仮設住宅やアパートに移り住んで散り散りとなってしまいました。しかし、診療所の再開は、今年の春ごろを目指して進めております。

思い起こせば震災直後一週間くらいは、何も考えられず茫然自失となっております。

そのようなときにあって、妻の励まし（実際は叱咤されたのです。）や家族、親戚、友人、知人、そして歯科医師会の先生方や、奥羽歯科大学同窓の先生方や、石桜同窓の方々からの、暖かい励ましの言葉やお見舞いを頂き、一人じゃないんだ、頑張らなければと心から強く思えたことが、今の自分の前向きな心の支えとなっていることは間違いありません。宮古の復旧・復興はまだまだではありますが、これからも歯科医師として、人として、育てていただいた地域の方々と一緒に夢を持って前を向いて頑張っていきたいと思っております。

ご心配、お心遣いをいただきました皆様への御礼もこんなに遅くなってしまい、大変申し訳なく思っております。

本来であればご厚顔を拝しまして御礼を申し上げますところ、誠に勝手ながら、書面をもって失礼さ

せていただきますこと、どうぞお許してください。
本当にありがとうございました。



「無題」

(新24回生) 道又 元

震災発生から11か月が早くも経とうとしています。3.11から今日までは月並みですがあっという間、夢の中みたいでした。この震災で、ご家族やスタッフに人的な被害を受けられた方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

当日は、午後の診療の開始直後でした。かつて経験した事のない種類の非常に大きな揺れが襲ってきました。その30分後あの不気味な音響とともに津波が来襲し、信じられないようなパワーで町中を引っかき回して、道路や商店街等の家並みを完全に破壊

しました。まさに「黒い怪物」でした。

患者さんを逃がした後で、家族全員で何とか屋上に上がり、スタッフは山の上に逃げて無事でした。そして屋上から呆然とその怪物を眺めていました。屋上に上がったときには既に津波が来ていたので、時間的にはぎりぎりだったということになります。ホンモノが来ちゃったんだなあ・・・とぼんやり思っていました。鳴り続けるクラクションやサイレンの音、プロパンガスの漏れるシューシューという音とともに、防災無線のいやに冷静なアナウンスが妙に鮮明に記憶に残っています。目の前で我が愛車が逆立ちして、第2波で元に戻りました。もう1台の車は気がつくや隣家の駐車場に信じられない角度で鎮座していました。(2台とも廃車になりました。)我が家も1階が完全に水没し、ものを取りに行こうとしたら1階への階段は最上段2段を残して水の中でした。まさに恐怖です。

次第に夕闇が迫り、寒くなってきました。2階の診療室は幸い浸水せず、ほぼ無傷だったのでそこにあつた反射式の旧式石油ストーブのおかげで何とか寒さをしのぐ事ができました。スタッフルームにあつた買い置きの菓子類と、ストーブ上のやかんのお湯でどうにか人心地がつかしました。その日はそれで日が暮れて、完全に闇に包まれた無音の街の上でやたらにかい星々がまたたいているのが強烈な記憶となっています。

表通りへの通路は全てガレキで塞がれ、裏山の山道をたどって国道45号線沿いにあるお寺へ、当時家にいた次男とともに水と食料の調達に行きました。そこでは偶然、遺体の搬入現場に立ち会うことになりました。私は携帯電話を流してしまい、仕事に出かけたままの長女とは連絡が取れませんでした。これは要するに、外部との連絡が取れないということの意味していました。2日後、中里団地の坂道を次男と歩いているとき偶然長女と涙の再開を果たしました。それから仮住まいを見つけるまでの約1ヶ月間の電気も水もない生活は、かつてないもの凄く経験であり筆舌に尽くしがたいものがありました。水洗トイレで使う水の量には、正直驚きました。苦勞して運んできたポリタンクの水が、驚くほど短期間で消えていきました。なるべく流さないようにしたり、雪解け水を溜めたりして工夫して何とか過ごしました。物資の調達では、徒歩でどこまでも行くと

いう状態でした。毎日のように西町方面へリュックを背負ってゴム長という被災者スタイルで歩きました。3往復もすることもありました。消防署の仮設電話のところで、順番を巡っての人間の本性がむき出しになったいさかきを目撃したり、ガレキだらけの街を米軍や自衛隊の軍用車が行き交い、救急車や警察車両が列をなす、上空は見慣れないヘリや航空機、沖には空母もいるというまるでハリウッドのパニック映画の中じゃないかという状況の中をひたすら歩きました。幸い長女の軽自動車のみ生き残り、この車を自宅のそばまで持ってこられるようになってから、だいぶ楽になりましたがガソリンの確保には悩まされました。宮古病院前のGSに午前2時から7時間並び、6リッターの給油と灯油1缶でした。エンジンを切った真夜中の待機は、寒さが半端じゃなくつらいものでした。スーパーに1時間以上並んで買い物とかしている中で、被災していない人々や街に対する、もの凄く違和感に悩まされたのは私だけではないと思います。



また、自分の生活のことで手一杯で、非常時の歯科医師の責任等外部のことに思いを致すことができなかつたことは、正直言って後悔の念とともに反省しています。

そして、色々な方々から本当にたくさんの援助を頂きました。わざわざ訪問頂いた方、様々な物資をお送り頂いた方、インターネットで私の消息を探してくれた友人、この場を借りて心からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、我が家のロケーションは、漁港、魚市場から通り2本隔てて少し高台にある、まあ大丈夫かな、という感じの場所でした。ところがいざ津波が来襲してみると、海面からいくらかも距離がないということが実感されました。ウチより「低い」ところにある住宅、店舗、倉庫、土蔵などはほとんど全て取り壊され、町の人口の8割ぐらいがほかへ移ってしまいました。患者さんや町内の人たちで亡くなった方も多く、日没後は本当に真っ暗で、表現は悪いのですがまさにゴーストタウンという言葉を使わざるを得ません。現在は何とか診療を再開できていますが、周りの景色が一変し、建物があまり見あたらないような状況で、この街自体がどうなっていくのかと心配は尽きません。実際の時間経過と、色々なことがあった中で主観的な時間経過では次元が違うとか、じっくり来ない状態が今も続いています。しかしこうなってしまった以上、目の前の事を精一杯やっていくしかないと思っています。ゆっくり、がんばっぺし！（宮古歯科医師会 会誌「藍青」第25号より転載）



（新24回生）村田 昌明

「東日本大震災」あの時、そして今

あの日は息子の歯科大学卒業式で東京にいました。そして報道にあったように東京の交通マヒの中に巻き込まれていましたが、地震直後はまだそれ程まで深刻になっていることなど夢にも思わず銀座の街をぶらぶらしていました。しかしながら時間と共に街の動きが変わっていきました。お店のシャッターが降り、電車が止まり、タクシーに長蛇の列。私はそのようになりつつある中でも、まだホテルに泊まればいいかぐらいのある意味気楽な気持ちで、とりあえず近くの帝国ホテルのロビーに行きました。

しかし、そこは既に人が溢れ避難所と化していました。ロビーのテレビ前は人集りで、宮城や福島の海岸沿いが凄まじい状況になっている光景を多くの人々はただ呆然としながら傍観していました。そしてその時に、もしかすれば岩手も？という思いが少し過ぎりましたが、本当に野田村の中心街まで津波がきていることなどはまだ夢にも思っていませんでした。そして、震災から2時間後位に当院に勤務している技工士さんからメールで野田村の状況についての一報が。「野田村壊滅しました」と。私はなんとデリカシーのない奴だなと思いつつも、壊滅って何？と。

帰宅できたのは震災から4日目。飛行機、バス、そして途中で車をかりてやっとなのおもいで自宅へ。既に家内・兄弟・知人で大規模半壊となった自宅の家具や畳、家の床一面に積もった泥と格闘して片づけてくれていました。後日聞いたところでは家内も震災当時は野田の街中にいたそうです。地震の揺れの大きさには驚きながらもすぐに避難しなければならぬとは思っていなかったようです。そして津波がくるまでの間に周囲の状況等から取り敢えずは隣の久慈へ避難するかということで、比較的ゆっくりした行動で愛犬に洋服を着せたりしながら避難したようです。そこで愛犬を自宅においていけば助からなかったことは言うまでもないことですが、そんな

状況になっていることなど私は東京にいたその時間には夢にも思っていませんでした。

帰宅して驚いたのは村全体がどんよりとグレーにみえたこと。家のすぐ裏の川は大量の瓦礫が溜まって凄まじい状況。戦場は知らない私でも爆撃を受けてもここまではならないのであろうと思われる程の壊滅状態でした。デリカシーのない奴と思った技工士さんの「野田村壊滅しました」のメールの意味がここにきて納得。そんな中で診療室は一部損壊だけですんだことはある意味では幸いでした。室外機器が浸水し使用不可能になりましたが診療室内の機械類はなんとか被害を免れました。

そして、その後の診療は10日目から1台の診療台を緊急で稼働可にして応急処置の患者さんをみる体制にはできました。主なライフラインの復旧に要した時間は停電が3/19、水道が3/30、下水道が4/2、下水の復旧が遅れたのがとても痛かったです。また光のインターネットの復旧は7月まででそれも不便を感じました。

震災当時は身元確認作業、医療・口腔ケア、被災会員への対応、避難所でのイベント等様々なことを行いました。この中で最も歯科医師会として貢献できた部分は身元確認作業でした。もちろんこれは我々にとっても初めての経験でありいろいろな面での混乱はありました。しかしながら野田村は規模的には他の沿岸部と比較すると、狭い範囲での被災ということで確認は他の地域よりも早期にできましたが、亡くなられた方々を思うと本当に残念でなりません。ちょっとしたことが生死を分けた原因なわけですが、当医院に通院されていた患者さんが多かったこともあり痛惜の念でいっぱいです。心から改めましてご冥福をお祈り致します。

口腔ケアに関しましては、口腔ケア用品の配布が主であり実際に避難所でケアすることは難しい状態にありました。ただ当地区の歯科関係者で被災したのは幸いにも私だけであり、多くの皆さんにご支援頂きなんとか早期に応急的な治療が可能になりました。その結果、患者さんにはそれ程はご迷惑をかけないで出来たのではないかと考えています。

治療に関しては義歯を紛失した方が多数おいでになり義歯の新製が多かったです。そういう意味において、野田村は避難所での処置というよりも送迎して院内での処置が主になりました。また、仮設住

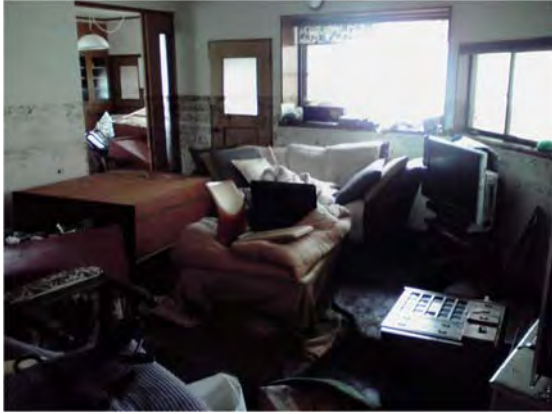
宅を周回する上では多くの方々から頂いた口腔ケアに関する支援物資が力になりました。配給時の受け渡しで被災していた方々といろいろな心の交流ができたと思っています。

避難所でのイベント等につきましては、口腔ケア用品はもちろんですがその他に衣類や食器等も運んで、会場に広げて希望者に配布ということも数回行いました。また医院内でも同様なことを震災初期は継続して行っていました。それ以外には有志で行った震災から80日目の村の復興イベントには歯科医師会も積極的に参加して被災した皆さんと触れ合いました。

私はこの大震災で、歯科医師会やいろいろな同窓会の方々、校友会の方々、スタディグループのメンバー、若い頃の職場の同僚、ボランティアの皆さんに多大なご支援を頂き、災害で失ったもの以上に人の温かみを痛感させて頂きました。また石櫻会の中でも私の安否情報を掲載して頂いていたことも知り感謝です。このような災害で最も必要なことは何をにおいても「求められる前に、自らが進んで出来ること」の支援を行うことが大事であろうと痛感しました。今後は私が支援する側になった場合には今回の出来事を教訓として行っていきたいと思っています。震災後この3月で2年を向かえますが外見上は復旧が進んでいるようにみえる部分は多いですが、いろいろな支援も切れある意味においてはまさにこれから震災にあった人々、地域の人々にとっては正念場の時期であると思っています。私の医院でもまだ仮設住宅からの患者送迎が月にして100キロ位行っています。皆様方におかれましては、さらなる御支援のお気持ちを忘れないで継続して長い目で被災地を見守って頂ければ幸いです。

また最後に、歯科医師石櫻会35周年記念誌の編集委員の皆さんのご苦勞に感謝し簡単ですが私の震災をふり返っての今の報告とさせていただきます。





自宅居間



野田村商店街



自宅向いの家



震災瓦礫置き場 中野先生の土地をお借りして



津波が引いた後の自宅前



震災時のまとめ写真



Bulletin of SEKIO Association of Dentists
歯科医師石櫻会会報

創刊号

発行 ■ 歯科医師石櫻会事務局 〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70 くまがい歯科クリニック内 TEL / FAX: 019-632-1188 題字: 横澤昭平



歯科医師石櫻会会報の創刊号によせて

歯科医師石櫻会
 会長 横澤 昭平

平成19年6月の総会にて会長に就任いたしました。幹事長ならびに役員各位の抜群のチームワークで、歯科医師石櫻会事業の充実のみならず新規事業への積極的な取り組みが行われております。

物故会員を含めて100名を超える本会会員名簿の確認作業にあたっては、各幹事に割り振りしてその作業に当たりました。個人情報保護の問題に直面するなどしたためかなり難航しましたが、先日何とか皆様のお手元にお届けできる運びとなりました。

学術講演会をより充実させて一人でも多くの会員の参加を促そうと講師の選任にあたっては、会員から一名と外部講師一名を厳選し、直ぐにでも臨床に役に立つような興味深い内容となるよう毎回配慮がなされております。

また、平成19年度には新規事業として学術講演会をDVDに収録して会員に配布する試みがなされ、中学・高校の同窓の講演会ならではの、うち解けた雰囲気や動画を通して伝わったことと思います。

さらに、会員との情報交換のために講演会や総会などの報告と記録をかねた会報が制作されてこの度創刊の運びとなりました。

この会報を通じて新入会員の紹介や会員相互の情報交換を図り、会員各位のアイデアも取り入れて会報を充実させていきたいと考えております。今後ともご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

掲 載 内 容

- ・ 巻頭言
- ・ 平成20年度総会報告
- ・ 平成20年度講演会報告
 講演1 (新24回生)
 村田 昌明 先生
 講演2 (岩手医大第2保存学教授)
 國松 和司 先生
- ・ 参加者の紹介
- ・ 石櫻トピックス
- ・ 役員名簿
- ・ 幹事会記録
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 編集後記

平成20年度総会報告

平成20年7月13日(土) ホテル・ニューカーリーナ2階において、講演会(講演後抄録次頁別掲)終了後に平成20年度歯科医師石櫻会総会が26名の会員出席のもと開催された。小山田榮二幹事長が司会を務め、伊保内利一副会長より開会の辞が述べられた。横澤昭平会長の挨拶の後、総会は赤坂俊彦会員が議長に選出され議事が進行した。はじめに、小山田幹事長より平成19年度の会務報告が、村上修会計幹事より会計報告がなされ、桂啓文監事より会務・会計内容が適切である旨の報告があった。つづいて、平成20年度の事業計画等について審議され、原案通り可決承認された。また、会員名簿の年度内発行についても可決承認された。総会は田中健一副会長の閉会の辞で閉会した。



平成20年度講演会報告

今年度から外部講師も招いての講演会となり今回は岩手医大の國松教授。最新の歯周療法を判りやすく講演下さった。同窓の村田先生は長期症例を示しながら問題点を提起。ご自身開発の歯科領収書ソフトも楽しく紹介された。小松先生から國松教授を唸らせる鋭い質問もあり、内容の濃い1時間半の講演会であった。



講演 1
「卒後三十年の臨床を振り返る」
- 長期経過症例から見えてくるもの -
 村田 昌明 先生 (新24回生) 野田村開業



今回は20年から26年の長期経過例を発表させて頂きました。毎日の臨床はそれなりにベストを尽くして行っているつもりですが、ひとりの患者さんの症例を経年的にみた時にはいろいろな問題点が生じてきます。

私達はともすれば、状態が悪くなったのは「患者さん自身の管理の甘さ」ということで説明しがちになります。しかし、その中には我々サイドの見通しの甘さに原因がある場合も多くあるように感じますが、皆さんはどのように思われますか。また、今回の症例をまとめてみてもそのような点を強く感じ、私自身の臨床での反省材料がいろいろと見つかって、このような場をあたえてくれた中野先生に感謝しております。私は講演の中でもふれましたが、我々の臨床レベルを大きく左右するのはスタッフの力量が大きく関わってくると感じております。そしてまた、その力量のレベルアップも我々の能力のひとつであると考え、本当に我々が身につけなければならない分野は広く深いものであるし、その事を毎日の臨床では痛切に感じざるをえません。

最近の歯科講習会での話で恐縮ですが、都内で開業する若い歯科医が次のような事を話していました。「今は歯科の情報はすでに出尽くしたように思う。インプラントも含めて多くの医院では同じようなことをやっているから、なんで差別化をすればいいのかわからなくなってきた。」・・・というような話でした。

その話はもちろんうなずける部分は感じます、しかし、逆に否定の気持ちを強く持つ部分もあります。まあ、ここでの本題ではないのでおいておきますが、いずれ我々は医院の中で、いかに長期に通院してもらえるかということが、これからの医院経営では重要な部分をしめると思っています。

ですから、今回は拙い症例ではありましたが自分の長期症例をあげて、いろいろ考察してみました。そして、今回の私の症例の中に、皆さんにとって臨床のヒントになることが一つでもあれば幸いです。

(講師自抄)

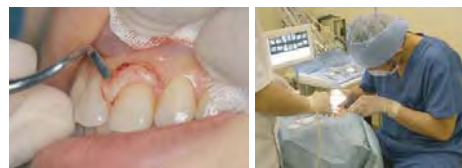


後列左から：高橋賢司、角田克保、波紫修一、中野廣一、田口 淳、佐々木正博、赤坂俊彦、武田秀雄
 中列左から：柳澤 泰、村田昌明、志和宏俊、野館孝之、中村行寿、八重樫良昌、関 克典、亀田幸宏、小山田榮二、村上 修
 前列左から：山田康平、桂 啓文、伊保内利一、國松和司先生、横澤昭平、田中健一、小松先生奥様、小松世潮 (敬称略)



講演2
「歯周治療の勘どころ」

國松 和司 先生
岩手医科大学歯学部保存学第二講座 教授



國松先生のご講演は「歯周治療の勘どころ」というタイトルで、1) 歯周診査のポイント、2) 治療戦略の考え方、3) 臨床例にみる治療法、4) 新しい歯周再生療法の4点に分けてのご講演でした。

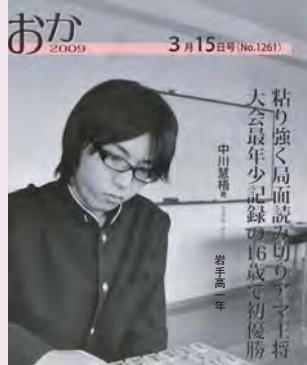
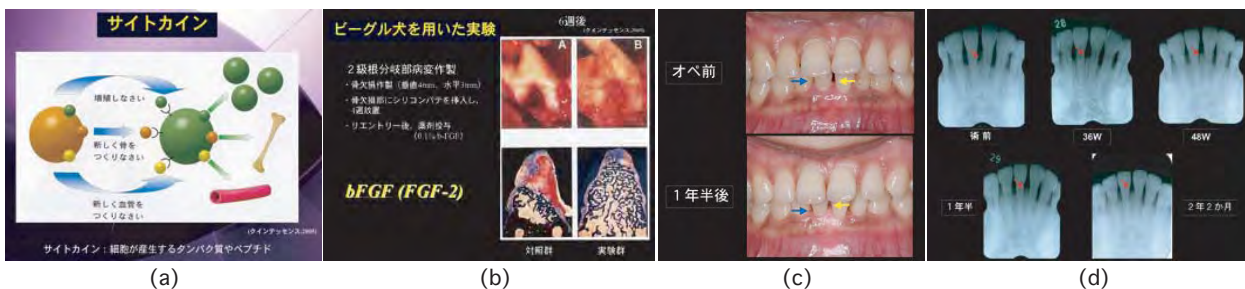
最初の1)「歯周診査のポイント」は、普段我々が行っているポケットプロービング測定の問題点について、プロービング時の歯肉からの出血の意味について、根分岐部病変診査の注意点についてなど、翌日からの診査にすぐに活用できる基礎的ではあるが重要な内容でした。

続いての2)の「治療戦略の考え方」については、う蝕とは異なり歯周病という複数の原因が複雑に絡み合って引き起こされる疾患に対して、その2大特性である部位特異性、周期性について、治療目標は炎症の除去および咬合の安定・回復を同時に行う必要性について、また治療の妨げとなる細菌因子、宿主因子、環境因子の3つのリスクファクターのついてどう取り組んでゆかかなどの幅広い総論的な話から、症例を分析する際に考えておくべきこととして、主訴、患者サイドの要求、術者側がどれだけのことをしてあげられるのか、治療後の結果予測ができるかなどについての日常臨床で必要で具体的な説明をされ、診査と分析の重要性について特に重点を置いて話されました。

3)の「臨床例にみる治療法」についてのお話は時間の関係もあり1症例のみ提示されました。先生の一番思い出深い、重度の歯周炎に罹患されていた方の治療について、細かい治療経過を説明しながら、どのように患者さんとの信頼関係を築いていったかの過程も交え、どういったことを注意しながら治療を進めていったら良いかについて具体的にお話されました。

最後に、4)「新しい歯周再生療法」(塩基性線維芽細胞増殖因子(bFGF)を用いた歯周組織再生療法)について話されました。近年、歯根膜組織の中に骨芽細胞やセメント芽細胞へ分化することができる間葉系幹細胞が成人になっても存在することが明かになり、bFGF(サイトカインの一種)でこの細胞を刺激することにより(a)、従来の歯周治療では不可能と考えられてきた真の歯周組織の再生が可能となりました。(b)はビーグル犬の実験結果ですが、歯周組織欠損部にbFGFを填塞すると6週後には新生歯槽骨、新生歯根膜、新生セメント質が観察されました。実際の臨床でも、bFGFの填塞により歯周組織再生が誘導、促進されることが確認されています(c),(d)。

現在、岩手医大でも臨床治験が進んでおり、近い将来、臨床適用が可能になる。夢の治療薬にご期待下さいとの内容でした。(文責：亀田幸宏)



石櫻トピックス

盛岡市で発行する「広報もりおか」の2009年3月15日号の表紙ページに岩手高校1年生の中川慧悟(なかがわ・けいご)君の写真が大きく掲載された。全国から強豪が集まり、しのぎを削る全国アマチュア王将位大会(第二十五期大会：昨年11月29、30日：於東京都将棋会館)で、史上最年少となる16歳で優勝するという大快挙を成し遂げた。

役員名簿

(任期：平成19年4月1日～平成21年3月31日)

- 会 長 横澤昭平
- 副会長 伊保内利一, 田中健一
- 幹事長 小山田榮二
- 幹 事
- 学術 中野廣一, 柳澤 泰
- 会計 村上 修, 赤坂俊彦
- 庶務 亀田幸宏, 熊谷哲也, 波紫修一
- 地区 伊保内利一, 道又 元
- 学内 大久保卓也
- 顧問 岡田宗二
- 監 事 桂 啓文, 山田康平 (敬称略)

幹事会記録(抜粋)

平成20年度第1回幹事会

日 時:平成20年5月15日(木) [於:菜園ながさわ]
出席者:横澤昭平会長,田中健一副会長,小山田榮二幹事長,
中野廣一,村上修,赤坂俊彦,柳澤泰,亀田幸宏,熊谷哲也,波紫修一の各幹事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 小山田幹事長より昨年度の事業報告:平成19年5月17日幹事会▼7月13日役員会、総会、講演会▼講演会DVDの会員への発送、会費自動振込み用紙の発送▼平成20年1月12日幹事会:3月県外会員に歯科医師石櫻会案内と振込み用紙の発送
(2) 村上会計担当幹事より平成19年度の会計報告:
<収入>収入合計378,000円(内訳:当日会費6,000×28=168,000、当日常会費5,000×10=50,000、振替入金5,000×18=90,000、振込入金5,000×14=70,000)
<支出>支出合計392,066円(内訳:総会費241,080、講師謝礼60,000(30,000×2名)、総会資料代48,604、総会後資料代15,988、同切手代800、お悔やみ代5,000(桂先生奥様)10,000(金子康雄元会長)、銀行引去手数料9,387、雑費1,207)
<収支> 378,000円-392,066円=△14,066円
(3) 波紫幹事より名簿の作成状況報告

2) 審議事項

(1) 会場について
・ニューカーリーナにて例年同様に総会、講演会、懇親会を行う。
(2) 講演会について
・国松和司先生(世話役:柳澤幹事)と村田昌明先生
・案内の発送を2回行う:1回目;締切りを早めて全員に:2回目;返信のない会員のみ締め切りを7月7日とする。
(3) 来年度の講演会の講師について
・原田英光先生(岩手医大)と岡村悟先生(新26回生)
(4) 講演会、懇親会参加費について
・参加費を6,000円から7,000円に引上げることに決定した。
(文責:熊谷哲也)

平成20年度第2回幹事会

日 時:平成21年1月17日(土) [於:菜園ながさわ]
出席者:横澤昭平会長,伊保内利一,田中健一の両副会長,
小山田榮二幹事長,中野廣一,村上修,柳澤泰,
亀田幸宏,熊谷哲也の各幹事泰,山田康平監事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 小山田幹事長より事業報告:平成20年5月26日;総会案内、年会費自動引落制度のお願い、平成20年度総会決定事項報告(役員任期、会名称、岩手県内の会員に限定しない事)の発送▼7月12日;役員会、総会、学術講演会(講師:国松和司先生、村田昌明先生(新24回生))(参加者数26名、前年は30名)、講演会DVDの会員への発送
(2) 会員名簿については、波紫幹事が急病欠席のため報告なし
(3) 村上会計担当幹事より平成20年度の会計中間報告:
<収入>収入合計447,216円(内訳:当日会費7,000×26=182,000、当日常会費5,000×10=50,000、振込年会費5,000×12=60,000、自動振替年会費5,000×31=155,000、利息216)
<支出>支出合計303,220円(内訳:総会費196,420、講師謝礼50,000、銀行引去手数料7,318、資料作成費44,202、送料5,280)
<収支> 447,216円-303,220円=143,996円
◇ [年会費納入方法の推移(人数)]

	H19年	H20年
銀行振込	19	11
自動振替	18	31
当日納入	10	10
合計	47	52

2) 審議事項

(1) 会員名簿発行について
発行時期:今年度内
(2) 平成21年度総会(会場:ホテルニューカーリーナ)
日時:平成21年6月20日(木) 18:00~19:30 講演会/
19:30~20:00 総会・役員選挙/20:00~21:30 懇親会

講演会講師:岡村悟先生(新26回生)、原田英光先生(岩手医大)
講師予定:H22年;塩山司先生、徳富亘先生
H23年;寺田林太郎先生、田中健一先生
講演案内:3月;名簿と一緒に案内発送、4月;講演会案内発送、5月;抄録発送
(3) 役員改選について
・4月:役員改選、会長選公募案内の発送
・選挙は会長選のみとする。(文責:熊谷哲也)

事務局からのお知らせ

■ 会計からのお願い

年会費のご納入が未だでございましたら、下記口座へ5,000円のお振込みをお願いいたします。銀行口座からの自動振替制度のご利用が便利です。事務業務も簡素化されますので、可能でしたらお手続きを宜しくお願いいたします。

■ 「銀行振込み口座」

東北銀行 大通り支店
(普通) 3162801 岩手県歯科医師石櫻会 会計 村上修

■ 「口座振替依頼書」のお手続きの問合せ・送付先
〒020-0021 盛岡市中央通2-7-11
歯科医師石櫻会 会計 村上修宛
TEL / FAX : 019-651-7090

■ みなさまの声をお寄せ下さい

本会についてのご意見・ご要望、会員名簿のご訂正や名簿に掲載されていない岩手中高卒の歯科医師情報、会員のお悔やみ情報などがありましたら事務局までお知らせ下さい。

歯科医師石櫻会事務局

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70
くまがい歯科クリニック内
TEL / FAX : 019-632-1188
E-mail: tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

編集後記

この度歯科医師石櫻会会報を創刊できるはこびとなりました。これもひとえに執筆依頼などの求めに快く応じて下さった会員の皆様のご協力の賜と心から感謝申し上げます◆岩手高校の囲碁将棋部は今や東北のみならず全国大会の賞を総なめにする程の強豪校。全国アマチュア王将位大会で史上最年少優勝を果たした中川君も岩高の同部に憧れて八戸市から越境入学。ハイレベルな同輩先輩に磨かれての快挙だといいます。何とも誇らしい後輩達ではありませんか。石櫻に新しい伝統が芽吹いたようです◆今年の講演会は、インプラントの泰斗である小宮山先生に長く師事された岡村悟先生(新26回)と次世代の歯科医療「歯の再生医療」の日本のリーダー的存在、原田英光教授(岩手医大)のご講演です◆多数のご参加をお願いいたします。
(中野廣一 記)



Bulletin of SEKIO Association of Dentists

歯科医師石桜会会報

第 2 号

発行 ■ 歯科医師石桜会事務局 〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70 くまがい歯科クリニック内 TEL / FAX: 019-632-1188 題字: 横澤昭平



歯科医師石桜会会長就任のご挨拶

歯科医師石桜会
会長 山田 康平

この度平成21年度総会にて会長就任の承認をいただきありがとうございます。
 とうございます。

先生方には日々地域の皆さんの健康のため、ご家族のため頑張っていることと思います。楽しいこと苦しいこと、困ったことなど沢山あると思いますが、そんな時、同窓の先輩、同級生、後輩の先生方が側にいるととても心強く、安心です。

歯科医師石桜会は研修会、懇親会の二本立てで運営してゆきますが、研修会では何か一つでも学んで明日からの診療に役立てていただくように、懇親会では大いに友情を暖め、趣味の話などで盛り上げていただきたい、魅力ある、進んで出席したくなる会にしたいと考えております。

百名を超える会員、ベテラン、新進気鋭の役員の先生方とともに本会発展のため努めて参りたいとおもいます。各位の温かいご協力、ご支援をお願いいたします。

掲 載 内 容

- ・ 巻頭言
- ・ 平成21年度総会報告
- ・ 平成21年度講演会報告
講演1 (新26回生)
岡村 悟 先生
講演2 (岩手医大口腔解剖第2教授)
原田 英光 先生
- ・ 歯科医師石桜会会の歩み
- ・ 石桜トピックス
- ・ 役員名簿
- ・ 幹事会記録
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 編集後記

平成21年度総会報告

平成21年6月20日(土)ホテル・ニューカーリーナ2階において、講演会終了後に平成21年度歯科医師石桜会総会が28名の会員出席のもと開催された。赤坂俊彦幹事が司会・議長を務め、伊保内利一副会長より開会の辞が述べられた。横澤昭平会長の挨拶の後、総会の議事が進行した。小山田榮二幹事長より平成20年度の会務報告が、村上修会計幹事より会計報告がなされ、桂啓文監事より会務・会計内容が適切である旨の報告があった。つづいて平成21年度事業計画等について審議され原案通り可決承認された。また、山田康平新会長体制も満場一致で可決承認された。総会は田中健一副会長の閉会の辞で閉会した。

(文責: 赤坂俊彦)





講演 1
「岡村歯科医院の臨床」

岡村 悟 先生 (新 26 回生)
盛岡市開業



今回私は、岡村歯科医院で治療した一人の患者さんの治療経過を見ていただきながら、現在の私の臨床に対する考え方の一部をお話しさせていただきました。

【症例】41歳、女性、会社員 [初診]平成19年9月 [主訴] #37の冠脱離 [全身状態]糖尿病、蓄膿症、肥満 [口腔外所見]顔貌左右対称、咬合の低下を示唆する下顔面、上顎前歯が口唇から突出、ハイスマイル、顎機能障害は認めない [口腔内所見]上顎前突、下顎前歯部の切端は上顎前歯部の口蓋側歯肉を咬んでいる。臼歯部の咬合支持は上下左右側第一小臼歯のみ。同歯は咬合力の影響を受け舌側や口蓋側に傾斜している。中等度の歯周疾患。残存歯は、#14, 13, 12, 11, 21, 22, 23, 24, 26, 27, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 41, 42, 43, 44, 46, 47 [CT所見] 右上顎洞の粘膜が肥厚。右上7番相当部の歯槽骨に上顎洞に達する瘻孔を思わせる透過像 [治療経過] #36,37その他抜歯。下顎矯正。#15,16,17,36,37インプラント。上顎洞挙上術。咬合挙上。上顎前歯部歯肉、歯槽骨削除。

ジルコニア、オールセラミックによる補綴

初診時



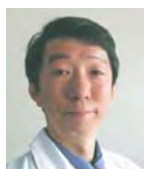
私の臨床の師の一人である小宮山彌太郎先生は、新しい技術や材料にすぐ飛びついてはいけない、だれか他の先生が失敗してくれるのでそれを見てからゆっくりやればいいとよくおっしゃいます。これは少し皮肉っぽい言い方ですが、本当に患者のためになるものをしっかり見極めてからやって下さいという事で、決して歯科医師側の様々な都合でやってはいけないとの戒めの言葉だとします。

この患者さんは沢山の歯科的な問題を抱えて訪れ、治療方針がなかなか決まらず苦慮し、結局オーバートリートメントと言えるほどの治療をする事になってしまいました。

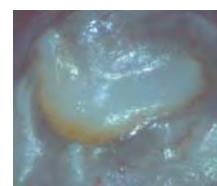
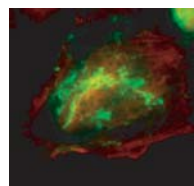
幸いにもなんとか治療計画通りに終わる事が出来ましたが、今後様々な問題が生じてくる可能性を必要以上に抱えてしまったのではないかと危惧しています。この治療が良かったのか悪かったのかはこれからの経過で判断されると思いますが、先生方にとって少しでも参考になれば、あるいは反面教師的にお役に立てれば幸いです。

(講師自抄)

治療後



講演 2
「歯科再生医療の現状と今後」
一夢の歯の再生医療は実現するのか？一
原田 英光 先生
岩手医科大学歯学部口腔解剖第二講座 教授



歯の欠損や喪失に対する治療は、入れ歯やブリッジやインプラントもそうですが、欠損域を人工物によって置き換えるという手法であり、これはだいたい1,400年前から行われていました。それに対し、再生医療は、喪失した臓器や組織を新たに作り出し機能させるものです。

歯の発生で、発現するエナメルタンパクを歯周組織再生に用いることができるようになってきましたが、歯の再生というまだまだ実現できるようになるまでには、時間がかかりそうです。

近年の歯科再生研究は、歯胚の器官培養技術、幹細胞培養のコラーゲンゲルの開発、歯や歯周組織の幹細胞の発見や、組織高顕技術の進歩によって、大きく発展してきました。また、歯の発生に関わる遺伝子の機能も細胞培養や器官培養、遺伝子改変マウスを用いた研究で明らかになってきました。

マウスの切歯は生涯伸び続ける常生歯で、上下顎正中に萌出しますが、歯は顎骨の中心部を長軸方向に横たわ

るように存在しています。切歯の切縁部は常時磨耗していくため、形成端(口腔内に露出している切縁とは反対側)からは常に歯を形成するための新しい細胞が供給され、切歯の恒常的な成長を補償しています。唇側の形成端には上皮組織が球状に膨らんだ場所があり、内部には、組織型幹細胞の存在が確認されました。この形成端の幹細胞を取り出し、腎皮膜下に移植をして新たに歯を作り出す実験に成功しました。

歯の発生には、萌出場所や形、方向性に関わる遺伝子、細胞の増殖や分化を誘導する遺伝子など様々な遺伝子が報告されています。これらの遺伝子を人工的に制御することは不可能です。しかし、外胚葉性異形成症の原因遺伝子が過剰歯を発生させることはわかってきました。今後は、遺伝子解析によって、エナメル上皮幹細胞の維持機構を解明し歯胚再生の研究が進んでいくものと思われます。

(柳澤 泰 抄)

平成21年度 歯科医師石櫻会 総会・講演会・懇親会 参加者のご紹介 (敬称略)



後列左から：赤坂俊彦、野館孝之、波紫修一、熊谷哲也、一戸 晃、久保田文彦、田中 俊、高橋賢司、上原 豊、関根 元
 中列左から：米内 正、志和宏俊、村田昌明、八重樫良昌、三田 透、徳富 亘、亀田幸宏、関 克典、竹田浩人、柳澤 泰
 前列左から：小山田榮二、田中健一、伊保内利一、山田康平、菊地治雄校長、横澤昭平、原田英光先生、岡村 悟、桂 啓文、村上 修

歯科医師石櫻会の歩みについて

私が開業(昭和52年)した時、当時の歯科医師石櫻会は組織だったものではなく、今は亡き金子康雄先生から指令がありまして、まず県内開業医(岩高OB)の名簿作成作りから始まったのが第一歩だったのではないかと思います。それまでは、金子先生を初め、岩中岩高同窓の先生方が、一同に会したことはなかったと伺っております。

私に名簿作成が一任されたことで、当時スギエデンタル専務の杉江宏司先輩をお願いして事務局になっていただき、卒業年度、新20回生まで把握した記憶があります。それから金子先生が、自ら指揮を執り会長をする旨の話があり、私の記憶の中では、市内材木町の料亭で照井安彦、飯島一、吉島一郎、金子康雄、岡田宗二、村井俊弘、山田康平の各先生と杉江宏司氏と田中健一で懇親会をしたことがありました(昭和54年頃)。

その後、紆余曲折があり、金子会長のもと、県歯の総会の後、市内の料亭で何回か集まりをもった記憶があります。

会員が増えるにつれ、酒宴だけでなく、同窓生で直木賞作家の高橋克彦氏(新18回生)に講演していただいたこともありまして。約30名近く参加したその時が一番多く、その後ただ集まってわいわい楽しく歓談していただけでしたので年々参加者が減少してきました。このままでは歯科医師石櫻会としての存在すら危うくなると思い、私の後に開業された村上修先生、小山田榮二先生に加わっていただき、何回か会合を開き会則等を決め、学術的な面も充実させるために中野廣一先生にも加わっていただき、現在の状況に至っております。

(田中健一 記)



石櫻トピックス

北上で平成21年10月31日に(写真左上から)藤沢誠吉19回、目時隆士22回、佐々川剛35回、小田島祥司20回、佐々木正博25回、中田廉平19回の6名で石櫻会が開催されました。

22回生の目時氏は現在黒沢尻北高校の副校長先生ですが、平成11年インターハイ岩手大会で黒沢尻北高校ソフトテニス部を全国優勝に導き全国的にも有名です。

特筆すべきは高校、大学と体操選手であり教員になってからテニス部の部長を任せられて、自分で練習方法なども研究し現在があるという熱血教師である点です。正に『石櫻精神』ここにあります。(佐々木正博 記)

役員名簿

(任期：平成21年4月1日～平成23年3月31日)

- 会 長 山田康平
- 副会長 田中健一、小山田榮二、小豆嶋正典
- 幹事長 中野廣一
- 幹 事
- 学術 柳澤 泰、上原 豊
- 会計 村上 修、赤坂俊彦
- 庶務 熊谷哲也、内田良夫
- 名簿 亀田幸宏、波紫修一
- 広報 関 克典、久保田文彦
- 地区 道又 元、村田昌明、佐々木正博
- 学内 大久保卓也(学術と兼務)
- 顧問 岡田宗二、横澤昭平
- 監 事 桂 啓文、伊保内利一 (敬称略)

幹事会記録 (抜粋)

平成21年度第1回幹事会

日 時:平成21年6月2日(木) [於:ホテルカーナ「花梨」]
出席者:横澤昭平会長,小山田榮二幹事長,中野廣一,村上修,
赤坂俊彦,柳澤泰,関克典,熊谷哲也,波紫修一の
各幹事,桂 啓文,山田康平の各監事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 小山田幹事長より昨年度の事業報告:平成20年5月15日
幹事会▼7月12日総会、講演会▼平成21年1月17日幹事会:
3月:歯科医師石櫻会名簿の発送、4月:総会、講演会の案内、
会費自動振込み用紙、歯科医師石櫻会報創刊号の発送、5月:
総会、講演会の2回目、新会長推薦候補の案内発送
(2) 村上会計担当幹事より平成20年度の会計報告:
<収入>収入合計447,436円(内訳:当日会費7,000×
26=182,000、当日年会費5,000×10=50,000、振替入金5,000
×31=155,000、振込入金5,000×12=60,000、利息436)
<支出>支出合計303,220円(内訳:総会費196,420、講師謝礼
50,000(30,000、20,000)、資料作成費44,202、発送費5,280、
銀行引去手数料7,318)
<収支> 447,436円-303,220円=144,216円

2) 審議事項

(1) 会場について
・ニューカーナにて例年同様に総会、講演会、懇親会を行う。
(2) 講演会について
・原田英光先生(世話役:柳澤泰先生)と岡村 悟先生
・案内の発送を2回行う:4月上旬、5月下旬に発送済み。
(3) 来年度の講演会の講師について
・塩山 司先生(岩手医大)と徳富 亘先生(新26回生)
(4) 講演会、懇親会参加費について
・参加費は昨年同様7,000円に決定した。(文責:熊谷哲也)

平成21年度第2回幹事会

日 時:平成21年2月28日(土) [於:ホテルカーナ「花梨」]
出席者:山田康平会長,田中健一,小山田榮二,小豆嶋正典の各
副会長,中野廣一幹事長,村上修,佐々木正博,赤坂俊
彦,柳澤泰,関克典,久保田文彦,上原豊,大久保卓
也,熊谷哲也の各幹事、横澤昭平 顧問
桂 啓文,伊保内利一の両監事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より事業報告:6月20日;総会、学術講演会(講
師:原田英光先生、岡村 悟先生(新26回生))、懇親会(参加
者数30名、前年は26名)
(2) 歯科医師石櫻会報第2号は概ね完成している。
(3) 村上会計担当幹事より平成21年度の会計中間報告:
<収入>収入合計459,144円(内訳:当日会費7,000×
27=189,000、当日年会費5,000×15=75,000、前年度会費5,000
×1=5,000、校長先生祝儀10,000、振込年会費5,000×
9=45,000、自動振替年会費5,000×27=135,000、利息144)
<支出>支出合計372,897円(内訳:総会費217,000、講師謝礼
70,000、車代5,000、カラー資料25,000、送料・封筒代11,618、
印刷・送料28,236、印鑑代1,575、資料郵送料9,365、銀行引
去手数料5,103)
<収支> 459,144円-372,897円=86,247円

(3) その他:熊谷幹事より「石櫻同窓会報第34号」支部だより
に、21年度歯科医師石櫻会総会、講演会の紹介を寄稿▼
佐々木正博幹事より「石櫻トピックス」について、北上市で開
催された石櫻会の経緯、内容について紹介▼中野幹事長より、
横澤昭平顧問・前会長が「日本歯科新聞フォトコンテスト20
10年最優秀賞」を受賞されたことが報告された。

2) 審議事項

(1) 平成22年度総会(会場:ホテルニューカーナ)
日時:平成22年6月19日(木) 18:00~19:30 講演会/
19:30~20:00 総会/20:00~21:30 懇親会。

講演会講師:徳富亘先生(新26回生)、塩山司先生(岩手医大)
講師予定:H23年;寺田林太郎先生、田中健一先生
H24年;大久保卓也先生(新41回生)と他1名
総会等案内:4月;総会講演会案内、会報第2号、会費納入案内、
自動振替用紙も同封し発送、5月;(出欠の返事が無かった会員
のみに)第2回目の総会講演会案内発送。

(文責:熊谷哲也)

事務局からのお知らせ

■ 会計からのお願い

年会費のご納入が未だでございましたら、下
記口座へ5,000円のお振込みをお願いいたしま
す。銀行口座からの自動振替制度のご利用が便
利です。事務業務も大変簡素化され助かります
ので、お手続きを宜しくお願いいたします。

■ 「銀行振込み口座」

東北銀行 大通り支店
(普通) 3162801 歯科医師石櫻会 会計 村上修

■ 「口座振替依頼書」のお手続きの問合せ・送付先
〒020-0021 盛岡市中央通2-7-11 むらかみ歯科医院内
歯科医師石櫻会 会計 村上修宛
TEL / FAX : 019-651-7090

■ みなさまの声をお寄せ下さい

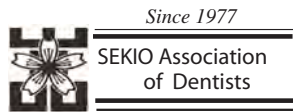
本会についてのご意見・ご要望、会員名簿の
ご訂正や名簿に掲載されていない岩手中高卒
の歯科医師情報、会員のお悔やみ情報などがあ
りましたら事務局までお知らせ下さい。

歯科医師石櫻会事務局

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70
くまがい歯科クリニック内
TEL / FAX : 019-632-1188
E-mail: tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

編集後記

今年は年始から嬉しいニュースが飛び込んできた。
本会の前会長(現顧問)の横澤昭平先生が、日本歯
科新聞フォトコンテスト2010年の最優秀賞を受賞
されたのである。宮城県の伊豆沼で11月の早朝、日
の出とともに一斉に飛び立つガン姿を捉えた「朝
光」という作品である。紙面の関係で本号で紹介で
きないのが残念であるが(次号掲載予定)、会員の皆
様と共に受賞の喜びを分かち合いたい。◆特別寄稿
として、「歯科医師石櫻会の歩み」を田中健一先生に
執筆いただいた。先輩達が尽力されて立ち上げた本
会の発足当時の模様を記録として留め、後輩たち
にもその苦勞を伝えたいという思いからである◆母
校の石櫻同窓会のHP (<http://www.sekiou-ob.com/>)に
「支部便り」→「歯科医師石櫻会」を加えていただ
いた。本会の重要な情報は、このHPにも随時アップ
されます。是非ご活用下さい。(中野 廣一 記)



Bulletin of SEKIO Association of Dentists

歯科医師石櫻会会報

第 3 号

発行 ■ 歯科医師石櫻会事務局 〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70 くまがい歯科クリニック内 TEL / FAX: 019-632-1188 題字: 横澤昭平



大震災からの一日も早い復興を祈る

歯科医師石櫻会
会長 山田 康平

平成23年3月11日(金曜日)午後2時46分、東北地方に未曾有の大地震が発生し各地に甚大な被害をもたらしました。東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)と名付けられ観測史上最大のM9の地震、23m以上の大津波、福島第一原発事故が発生し、沿岸の市町村は一瞬のうちに壊滅状態になりました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

我が歯科医師石櫻会会員の安否が心配されましたが、23日現在判明しているところでは皆さん無事と確認されました。しかし、身内の方のご不幸、また家屋の倒壊、津波による流出や火事による焼失等々被害に遭われた方がいらっしゃいます。命からがら避難した仲間、未だ連絡の取れない地域の方々の想像を絶するご心痛、不安はいかばかりかと心配するばかりであります。現在復興のめどが付き始めたものの物資の不足、ガソリンなどの不足は皆さんの日常生活に大きな影響を及ぼしている現状です。

会員の皆さん、復旧に向け一歩を踏み出した今、一人一人がそれぞれの立場で知恵を出し合い、また、自分の職業をとおしできることから支援をしてゆきましょう。一日も早い復旧と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

この会報が皆さんに届く頃、笑顔でお会いできますよう御祈念いたします。

掲 載 内 容

- ・ 巻頭言
- ・ 平成22年度総会報告
- ・ 平成22年度講演会報告
講演1(新26回生)
徳富 亘 先生
講演2(友愛病院歯科科長)
塩山 司 先生
- ・ 石櫻トピックス
- ・ 役員名簿
- ・ 幹事会記録
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 編集後記



平成22年度総会報告



平成22年6月19日(土)ホテル・ニューカーリーナ2階において、23名の会員出席のもと平成22年度歯科医師石櫻会総会が開催された。上原豊幹事が司会を担当し、田中健一副会長の開会の辞で閉会した。山田康平会長の挨拶の後、村田昌明会員が議長を務め、総会の議事が進行した。中野廣一幹事より平成22年度の会務報告が、村上修会計幹事より会計報告がなされ、伊保内利一監事より会務・会計内容が適切である旨の報告があった。つづいて平成22年度事業計画等について審議され原案通り可決承認された。会員慶弔規定が協議され次年度の総会で審議されることとなった。総会是小山田榮二副会長の閉会の辞で閉会した。



講演1

「ヨコタデンチャーを見直して」

徳富 恒先生(新26回生)
花巻市開業

日々薄れ行く記憶の片隅から学生時代を思い起こせば、河邊清治先生の総義歯が基本だった様に思う。当時モデリングコンパウンドと格闘し、悪臭としか思えないチオコールラバーに苦戦して、やっとの想いで作り上げた総義歯なのに、大き過ぎかて邪魔で痛くて、噛めない、食べられない、話せない、笑えないと訴えられ、丹精込めて盛り付け磨いた口蓋すうへきの舌触りが悪いとか、リアリティを追求して掘り込んだ孤形空隙に食渣が溜まって掃除しにくいとかネガティブな感想を浴びせかけられ、再三調整してみた挙句、少々不満はあるが、使いなれた旧義歯の方が良いと言われてしまったほろ苦い記憶が蘇る。

そんな学生時代の最後に出会ったのが、阿部晴彦先生の「総義歯に強くなる本」である。この本が示してくれた一筋の光明が総義歯に対する私の意欲を辛うじて繋ぎ止める事になり、そしてファイトを湧かせてもくれた。そして総義歯はその善し悪しについて患者さんが直ぐわかる仕事だからこそ面白いことに気が付くこともできた。

薬理の大学院が終わったら阿部晴彦先生のところに弟子入りしたいとか、自分の歯を全部抜いて自分の口を使って総義歯作製法を極めたいとか、そんな話を父にした事がある。

ひとりの師匠に属するとそこに固執しなければならず、他の優れた方法を受け入れにくくなる事や、自分を練習台にして例え自分にピッタリ合う総義歯が作れたとして

も、世の中の多くの人の口腔内条件は千差万別だから、自分以外の人の総義歯がうまく作れるとは限らない。そういうことよりも高名な先生のお客さんになって、講習会を受ける方が良い。お客さんになれば、どの先生も丁寧に接してくれる、という理由だったと記憶しているが、この事は正に真実で今の私流を築いてくる上で大変役立つアドバイスであり大変感謝している。

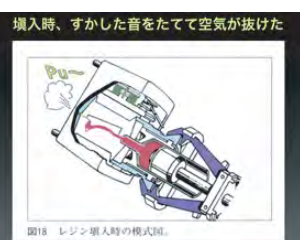
多くの先生の講演を受講したが最初は村岡博先生だった。痛快極まりない語り口から繰り出されるリングライズドオクルージョンと、コンフォートというTissueConditionerを使用し、旧義歯利用のテナティブデンチャーの使い方に総義歯の醍醐味を感じさせていただいた。

村岡博先生のお弟子さんである小嶋寿先生の講習も楽しかった。即重レジンで蛇の様に練り上げて歯列を作り、カーバイドバーで歯の形を彫り込んでいく実習をKaVoEWLの研修室で行ったが、それがご縁でKaVoの技工機を2台導入した。

また村岡博先生のご子息である村岡英明先生のコピーデンチャーを応用した総義歯製作法も何回も受講した。

そして一番受講回数が多いのが横田亮先生考案のヨコタデンチャーである。旧義歯には一切触らずに、最初からより理想的な義歯の形を求めて診断義歯を作製し、義歯粘膜治療を施していく。その際上下の診断義歯をワンプロックとしてイメージすると調性が行いやすい。人工歯は上下の診断義歯をガッチリ噛み合わせる歯車と割り切り、基本的に咬合調性は行わないで義歯粘膜治療を進めて行くのだが、今回はそのところを強調させていただいた。またイボカップの誤差について説明し、解決法もお示した。

(講師自抄)





講演2
「歯科材料の生体安全性」
 — 歯科用金属によるアレルギー —
 塩山 司 先生
 岩手医大第2補綴 前准教授 / 友愛病院歯科医長



一般社会でも金属アレルギーに対する認知が向上し、それと共に歯科用合金の含有元素の表示が義務化され、メタルフリーによる修復も注目されるなど治療環境も少しずつ変化している。臨床症状は、接触性皮膚炎、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、扁平苔癬、舌炎口内炎などが挙げられる。歯科用材料を扱う私たちは、歯科材料を安全に使用するために、アレルギー問診を十分に行う必要がある。また口腔内の粘膜病変、口腔内から遠隔に出た湿疹を見逃さないことが大切である。しかしこれらの疾患の原因は金属アレルギーのみでない原因が存在することもあり、アレルギー金属を除去するだけでは完治しない場合もある。

未だ金属アレルギーのメカニズムや前述疾患との詳細な関連性は不明というのが現状である。最近の発表では何らかのアレルギー症状の発症部位が口腔領域であった患者は約30%であった。専門医において口腔扁平苔癬と診断がついた患者は5%、そのうち何らかのアレルギー陽性反応が見られた患者は50%を超える割合だったという報告からしても、詳細な診断のもとに、診察してゆかなければならない。口腔扁平苔癬の原因は不明とされており、細菌やウイルスによる感染、C型肝炎、薬物、金属アレルギーなどが考えられていることも理解しておかなければならない。(講師自抄)

平成22年度 歯科医師石櫻会 総会・講演会・懇親会 参加者のご紹介 (敬称略)



後列左から：岡村 悟、村上 修、小山田榮二、上原 豊、中野廣一、久保田文彦、田中 俊、波紫修一
 中列左から：熊谷哲也、関 克典、米内 正、池田 健、柳澤 泰、八重樫良昌、小松世潮、村田昌明
 前列左から：田中健一、伊保内利一、塩山 司先生、山田康平、村井伸吾校長、徳富 亘、横澤昭平、桂 啓文

石櫻トピックス



「朝光」

横澤昭平先生(新12回生: 本会顧問)が、昨年(2010年)「朝光」で日本歯科新聞フォトコンテストで最優秀賞を受賞され、今年も「むすぶ思い」で最優秀賞を受賞。歯科写真界の歴史に残る、2年連続の最優秀賞を受賞となりました。今年のMORITA社の写真



「むすぶ思い」

カレンダー6月の写真「緑滴る」も先生の作品です。石櫻同窓生として誇れる先生の快挙を心からお祝い申し上げます。(中野廣一 記)

役員名簿

(任期: 平成21年4月1日 - 平成23年3月31日)

- 会 長 山田康平
- 副会長 田中健一、小山田榮二、小豆嶋正典
- 幹事長 中野廣一
- 幹 事
- 学術 柳澤 泰、上原 豊
- 会計 村上 修、赤坂俊彦
- 庶務 熊谷哲也、内田良夫
- 名簿 亀田幸宏、波紫修一
- 広報 関 克典、久保田文彦
- 地区 道又 元、村田昌明、佐々木正博
- 学内 大久保卓也 (学術と兼務)
- 顧 問 岡田宗二、横澤昭平
- 監 事 桂 啓文、伊保内利一 (敬称略)

幹事会記録 (抜粋)

平成22年度第1回幹事会

日 時：平成22年6月10日(木) [於：ホテルカーリーナ「花梨」]
出席者：山田康平会長、田中健一、小山田榮二副会長、中野廣一
幹事長、村上修、赤坂俊彦、柳澤泰、関克典、亀田幸
宏、久保田文彦、熊谷哲也、波紫修一の各幹事、桂啓文
監事、横澤昭平顧問(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告：平成22年2月28日幹事会▼6月19日総会、講演会▼波紫幹事から歯科医師石桜会名簿充実のため、今後、毎年度歯学部進学者の卒業時に連絡先等の情報を提供してもらえるよう岩手高校に依頼。4月：総会、講演会の案内、会費自動振込み用紙、歯科医師石桜会会報第2号の発送、5月：総会、講演会の2回目の案内発送。

(2) 村上会計担当幹事より平成21年度の会計報告：
<収入>収入合計459,144円(内訳：当日会費7,000×27=189,000、当日年会費5,000×16=80,000、振替入金5,000×27=135,000、振込入金5,000×9=45,000、雑収入10,000、利息144)

<支出>支出合計372,897円(内訳：総会費217,000、講師謝礼70,000、車代5,000、資料作成費等64,854、発送費9,365、印刷代1,575、銀行引去手数料5,103)

<収支> 459,144円－372,897円＝86,247円

2) 審議事項

- (1) 会場について
- ・ニューカーリーナにて例年同様に総会、講演会、懇親会を行う。
- (2) 講演会について
- ・塩山 司先生(世話役：柳澤泰先生)と徳富 亘先生。
- ・案内の発送を2回行う：4月上旬、5月下旬に発送済み。
- (3) 来年度の講演会の講師について
- ・寺田林太郎先生(平鹿病院歯科)と田中健一先生(新20回生)
- (4) 講演会、懇親会参加費について

平成22年度第2回幹事会

日 時：平成23年2月16日(水) [於：ホテルカーリーナ「花梨」]
出席者：山田康平会長、田中健一、小山田榮二の両副会長、中野廣一幹事長、赤坂俊彦、柳澤泰、関克典、亀田幸宏、久保田文彦、熊谷哲也、大久保卓也、波紫修一、幹事、桂啓文監事、横澤昭平顧問(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告：平成22年6月10日幹事会▼6月19日総会、講演会、懇親会(23名参加)▼6月30日：成田功先生(新33)ご尊父様ご逝去：会から弔電。平成23年1月16日：村上修先生(新23)病氣療養：会から見舞金。2月12日：徳富亘先生(新26)病氣療養：会から見舞金。

(2) 赤坂会計担当幹事より平成22年度の会計中間報告：
<収入>収入合計423,053円(内訳：当日会費6,000×23=138,000、当日年会費5,000×11=55,000、振替入金5,000×27=135,000、振込入金5,000×17=85,000、雑収入10,000、利息53)

<支出>支出合計357,207円(内訳：総会費207,480、講師謝礼70,000、車代10,000、総会資料21,855、会報等印刷費25,000、慶弔費13,538、自動振替手数料8,914、振込手数料420)

<収支> 423,053円－357,207円＝65,846円

- (3) 波紫名簿担当幹事より、会員名簿の充実のためには母校および岩手医大からの情報収集が不可欠であることが示された。
- (4) 山田会長から石桜同窓会本部理事会の報告があった。

2) 審議事項

- (1) 会長、監事の選出選挙に関する件
- ・4月初旬に立候補を募る文書を送付する(締切日：4月末日)。
- (2) 平成23年度総会・講演会・懇親会に関する件
- ・6月19日(土)夜6時から、ホテルニューカーリーナにて開催。
- ・講師は田中健一先生(新20回生)と寺田林太郎先生(平鹿病院歯科)
- (3) 平成24年度講演会講師に関する件
- ・大久保卓也先生(新41回生)と近藤尚知先生(岩手医大インプラント科)

(4) 平成24年度講演会講師に関する件

- ・柳澤泰先生(新31回生)と外部講師
 - (3) 会則改正および会員慶弔規定に関する件
 - ・役員任期に関する附則の追加と、任期に関する附則の一部削除案が審議され、総会に諮ることになった。
 - ・慶弔規定に関しては昨年からの持越し案件であり修正案が示されたが合意に至らず、次回幹事会で再度審議することとなった。
- (文責：熊谷哲也)

事務局からのお知らせ

■ 会計からのお願い

年会費のご納入が未だでございましたら、下記口座へ5,000円のお振込みをお願いいたします。銀行口座からの自動振替制度のご利用が便利です。事務業務も大変簡素化され助かりますので、お手続きを宜しくお願いいたします。

■ 「銀行振込み口座」

東北銀行 大通支店(支店コード103)
(普通) 3162801 歯科医師石桜会 会計 村上修

■ 「口座振替依頼書」のお手続きの問合せ・送付先

〒020-0016 盛岡市那須川町29-2 赤坂病院歯科
歯科医師石桜会 会計 赤坂俊彦 宛
TEL : 019-624-1225 FAX : 019-623-1825

■ みなさまの声を寄せ下さい

本会についてのご意見・ご要望、会員名簿のご訂正や名簿に掲載されていない岩手中高卒の歯科医師情報、会員のお悔やみ情報などがありましたら事務局までお知らせ下さい。

歯科医師石桜会事務局

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70
くまがい歯科クリニック内
TEL / FAX : 019-632-1188
E-mail: tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

編集後記

最近の我が母校、岩手中学高校のテニス部、囲碁・将棋部の快進撃が止まらない。昨年5月からの成績だけみても、5月囲碁部県大会優勝、6月テニス部県高総体団体優勝および個人優勝、6月テニス部東北高総体ダブルス優勝、7月岩手中学3年の村松光君(六段)が世界アマチュア囲碁県大会最年少優勝、8月将棋部全国高総文祭団体2位、個人優勝、8月テニス部少年男子東北2位、国体へ…。全国的に見ても小人数の中学・高校であるのに、正に少数精鋭である。優れた者、優れた指導者を核にして、それを真似、互いに切磋琢磨して勝利し、その勝利の喜びがさらなる努力を喚起する、という良い循環ができているのであろう。高いモチベーションを持続させ不屈の精神を養うには積み上げた勝利の体験に優るものは無い。どうやら母校には新たな「石桜精神」が宿りつつあるようである。(中野廣一 記)



Bulletin of SEKIO Association of Dentists
歯科医師石櫻会会報

第 4 号

発行 ■ 歯科医師石櫻会事務局 〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70 くまがい歯科クリニック内 TEL / FAX: 019-632-1188 題字: 横澤昭平



東日本大震災……石櫻精神……

歯科医師石櫻会
 会長 山田 康平

昨年は3月11日の東日本大震災で未曾有の地震、津波など東北の沿岸を中心に多大の被害をもたらした復旧、復興の一年でした。歯科医師石櫻会会員を含め被災された皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。

歯科医師石櫻会では震災発生後直ちに沿岸に住んでおられる会員の安否を確認すべく情報を収集しました。4名の先生が被災されていましたが大きな怪我もなく安心しました。しかし自宅、診療所は全壊、半壊、床上浸水等大きな被害を受けておられました。6月の総会で会員の中から、「同じ石櫻の学舎を巣立った者として被災された会員が一日でも早く復興されるようお手伝いをしてはどうか、義援金の募金をしませんか」との声があり会員の皆さんに協力をお願いしましたところ多くの先生から義援金を頂戴し、4名の先生への支援に活用させていただきました。石櫻の仲間の深い絆、支え合いを当たり前と感じ行動する岩手高校、石櫻精神のすばらしさを改めて実感しました。

30数年前、今は亡き先輩とお会いしたとき校規の三大綱領に『積慶』、『重暉』、『養生』を校訓としていると話されたが学生時代はその真の意味を理解することはできなかった。今、教育の理想としてあげられている三大綱領が気になっています。3年間の学生生活の中で仲間を思いやり、支え合う優しい気持ちを養い、岩をも砕く強い心を持ち社会のため役立つ道を模索して歩む、そんな強く優しい心を教えられた気がします。学生時代はあまり話をしなかった同級生と暫くぶりで会うと懐かしく思わず声をかけてしまいます。会議、会合などで出席者の中に石櫻同窓生がいると解っただけで心強く感じます。“岩手高校は私達を人間としてあるべき姿に育ててくれた。”そんな気がしています。

被災された沿岸の先生方は早い時期に診療所を再開され、地元の皆さんの健康に貢献されています。心強い限りである。会員の皆さんも医療を通しお手伝いをすると共に変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に歯科医師石櫻会会員、ご家族の皆様には健康に留意され幸多い年でありますよう御祈念申し上げます。

掲 載 内 容

- ・ 巻頭言
- ・ 平成23年度総会報告
- ・ 平成23年度講演会報告
- 講演 1 (新20回生)
田中 健一 先生
- 講演 2 (平鹿総合病院歯科科長)
寺田 林太郎 先生
- ・ 本会大震災関連報告
- ・ 石櫻トピックス
- ・ 役員名簿
- ・ 幹事会記録
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 編集後記



平成23年度総会報告

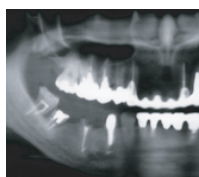


平成23年6月18日(土)ホテル・メトロポリタン盛岡本館において、東日本大震災の犠牲者に黙祷し、田中健一先生、寺田林太郎先生の講演会後に平成23年度歯科医師石櫻会総会が28名の会員出席のもと開催された。田中健一副会長の開会の辞、山田康平会長挨拶の後、上原豊幹事の司会、池田健会員が議長を務め議事が進行した。中野廣一幹事長より平成22年度の会務報告、赤坂俊彦会計幹事より会計報告がなされ、伊保内利一監事より会務・会計内容が適切である旨の監査報告があった。平成23年度の事業計画等についても審議され、原案通り承認された。また、山田会長の続投も承認された。小山田榮二副会長の閉会の辞で閉会した。総会後の懇親会は、村井伸吾校長先生にもご臨席いただき、熊谷哲也幹事の司会のもと、横澤昭平先生のフォトコンテスト最優秀賞受賞、および大久保卓也先生学位取得祝いも行われ、盛会裡の内に次年の再開を期して中締めとなった。



講演1 「東洋医学を取り入れた 歯科治療の実践」

田中 健一 先生 (新20回生)
盛岡市開業



近年の食の急激な変化、生活環境や自然環境の悪化やストレスの増加により、免疫力は低下し、難治性の感染症や原因不明の疼痛、アレルギー疾患などが増加しているとの各医療分野からの指摘があります。口腔領域でも、原因不明の難症例に遭遇する機会が多く、このような症例には、従前の局所的、画一的な西洋医学的対応だけではなく、体全体を診る東洋医学(統合医療)的見地から行った処置が著効を奏することがあります。

症例:38歳女性。主訴;左側下顎臼歯の持続性の自発痛、夜間痛による不眠。現症歴;他県A歯科にて左下④⑤⑥⑦にcast bridgeを装着。装着時から違和感と咬合痛があった。ご主人の転勤により転院を余儀なくされ本県B歯科受診。隣接智歯が原因と診断され、抜髄・根充処置を受け、4-5回受診するも症状が一向に緩解せず当院受診。治療経過;通常の検査に加え、BDORT(Bi-digital

O-ring test)にて、原因歯の識別と適合抗生剤を選択。治療初日から、経皮ツボ通電法、井穴刺絡法、置鍼、足の反射区刺激療法と適合薬剤の投薬を行い、治療開始2日目、それまで約1か月間続いていた自発痛が劇的に改善した。

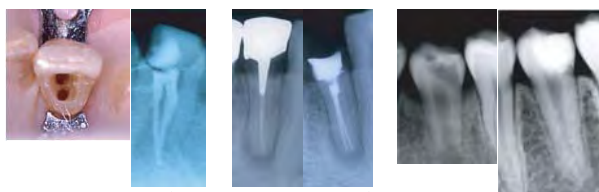
通常の処置を行っても効果が上がらない難症例に東洋医学的手法を取り入れることにより急性症状が驚くほど早く消失し、快癒に至った症例を通じて、私の考える“東洋医学を取り入れた歯科治療の実践”について話をさせていただきました。今後さらに東洋医学を活用した症例の集積と結果の評価によって、より確実な診療の方向性を見いだしてゆきたいと考えております。

最後になりましたが、貴重な講演時間を頂戴しながら、プレゼンテーション機器のトラブルで十分なお話が出来なかったことを心からお詫び申し上げます。(中野 廣一 抄)



講演2 「歯内療法への再考」

寺田 林太郎 先生
JA秋田厚生連 平鹿総合病院 歯科医長



下顎側切歯2根管 下顎小臼歯2根管 根尖發育術

歯内療法は他の歯科治療と異なり、目視できない所を目視できないままに行うことによって難しいものになります。加えて、根管の解剖学的多様性、診断の困難性、口腔内の制限等から更に難しくなります。しかし、歯内療法は多くの場合、疼痛からの解放、最終的には補綴治療の基礎となる重要な治療です。歯内療法において、新しい技術、材料、薬剤、器具等が開発されていますが、正しく理解さず、誤解されたまま放置されています。そこでもう一度歯内療法を見つめ直し、成功へ導く方法を再考します。と言う内容で寺田先生の講演が始まりました。

1 根管拡大: 抜髄の場合は炎症歯髄、感染根管の場合は根管内の汚染部室の除去を目的とした根管拡大には、根尖部から拡大する方法、歯冠部より拡大する方法や、両者を併用する方法があります。具体的な内容は省略します。いずれの方法でも#20-25で作業長まで到達しておくことや根管を詰まらせないようにすることが重要です。そのためのテクニックは講演でお聞きした通りです。

2 根管清掃: 根管清掃には、根管消毒剤として用いるもの、根管洗浄剤として用いるものがあり、根管拡大と併せて根管治療には大切な作業です。それぞれに用いる薬剤の特徴を理解して用いることが重要とのことでした。

3 根管充填: 根管充填材や糊剤にはいろいろな種類がありますが、結局何を使用しても根管拡大と根管清掃をきちんとやらなければだめだということです。また、根管充填の方法(側方や垂直加圧など)もいくつかありますがどれも同じだそうです。(overよりは4mmまでならunderの方がいいかも)

つまり、根管拡大が大事?それとも根管充填が大事?ということを考えさせられました。そして今までの自分の根管治療の考え方を一新してくれるようなすばらしくかつ面白い講演でした。最後に、時間がなく、寺田先生にはご迷惑をおかけしたことをお詫びして、再度講演を依頼したいと思いました。

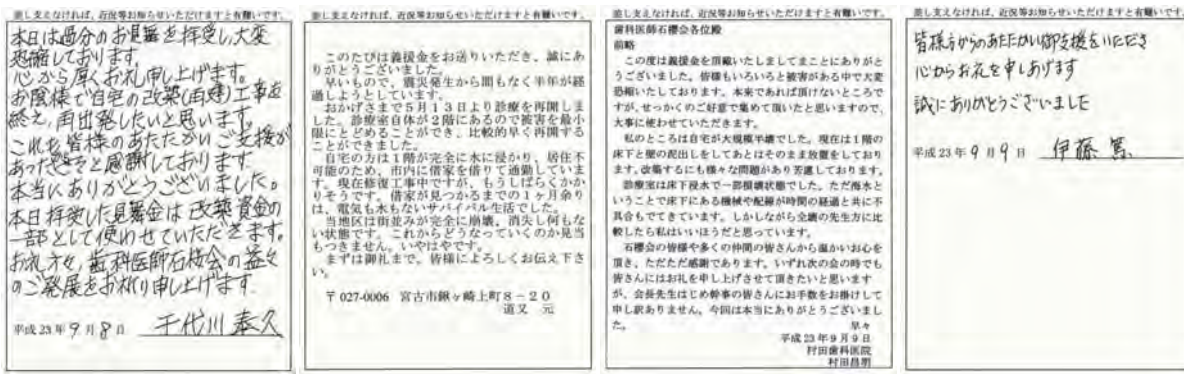
(柳澤 泰 抄)

東日本大震災で被災された歯科医師石櫻会会員関連報告

3.11の大震災で大きな被害に遭われた本会会員は、山田町の千代川泰久先生(新10回生)、宮古市の伊藤 篤先生(新23回生)、道又 元先生(新24回生)、野田村の村田昌明先生(新24回生)の4名の先生でした。

過日、被災された会員のための義援金・見舞金の募金を募りました所、多くの会員から、合計20万円の募金を頂戴いたしました。被災された各先生から御礼のお手紙が届いておりますので掲載させていただきます。

皆様お元気で、再出発に向け頑張っておられます。早く元の生活に戻れますよう、同じ学舎を巣立った仲間として、これからも応援してゆきましょう。



平成23年度 歯科医師石櫻会 総会・講演会・懇親会 参加者のご紹介 (敬称略)



後列左から：田中 俊、大久保卓也、小山田 晃、徳富文彬、久保田文彦、波紫修一、赤坂俊彦、中村行寿
 中列左から：熊谷哲也、亀田幸宏、渡辺充泰、八重樫良昌、関 克典、徳富 亘、上原 豊、西郷史郎、柳澤 泰、田中崇一
 前列左から：村上修、米内 正、伊保内利一、田中健一、村井伸吾校長 山田康平 横澤昭平 寺田林太郎先生 小山田榮二 池田健、中野廣一

石櫻トピックス

石櫻同窓会のホームページ (<http://www.sekiou-ob.com/>) には、大震災に被災された方への激励のメッセージや支援活動に健闘している同窓生の様子が書かれています。ぜひ一度アクセスしてみてください。高橋克彦さん(新19回生)のメッセージを見つけました。「大地にしっかりと根を張り、柔らかな心ながら頑固な岩をも割る思いを持ち、自身の咲かせた美しい花を他人の喜びと変える。我ら岩手高校の卒業生はだれしもがそれを胸のそこに秘めている。そしてそれは、今の震災を乗り越える一番のキーワードではないのか。」
 (村上 修記)



役員名簿

(任期：平成23年4月1日-平成25年3月31日)

- 会 長 山田康平
- 副会長 田中健一, 小山田榮二, 小豆嶋正典
- 幹事長 中野廣一
- 幹 事 柳澤 泰, 上原 豊
- 学術 赤坂俊彦, 西郷史郎
- 会計 熊谷哲也, 内田良夫
- 庶務 亀田幸宏, 波紫修一
- 名簿 関 克典, 久保田文彦
- 広報 道又 元, 村田昌明, 佐々木正博
- 地区 大久保卓也 (学術と兼務)
- 学内

- 顧問 岡田宗二, 横澤昭平
- 監 事 桂 啓文, 村上 修 (敬称略)

幹事会記録 (抜粋)

平成23年度第1回幹事会

日 時：平成23年6月2日(木) [於：「若竹」]
 出席者：山田康平会長、田中健一、小山田榮二副会長、中野廣一幹事長、村上 修、赤坂俊彦、柳澤 泰、関 克典、亀田幸宏、久保田文彦、上原 豊、熊谷哲也、波紫修一、大久保卓也 の各幹事、桂 啓文監事(敬称略)

3.11の未曾有の災害にみまわれたが、例年通り総会、講演会等を開催し、石桜の絆をさらに強めようとの会長の挨拶があった。

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告：平成23年2月16日幹事会▼6月18日総会、講演会▼4月：総会、講演会の案内、会費自動振込み用紙、会報第3号の発送、5月：2回目の案内発送。

(2) 赤坂会計担当幹事より平成22年度の会計報告：
 <収入>収入合計 423,053円(内訳：当日会費6,000×23=138,000、当日年会費5,000×11=55,000、振替入金5,000×27=135,000、振込入金5,000×17=85,000、雑収入10,000、決算利息53)
 <支出>支出合計357,207円(内訳：総会費207,480、講師謝礼70,000、車代10,000、資料作成費等46,855、弔電3,538、見舞金(2件)10,000、振替手数料420、自動振替手数料8,914)

<収支> 423,053円 - 357,207円 = 65,846円

2) 審議事項

(1) 会長、監事の選出選挙について
 ・立候補締切日を過ぎても立候補届出が無く、幹事会としては山田会長の留任続投と、桂監事の留任、伊保内監事に代わり村上修幹事を新監事として推挙し総会に諮ることになった。

(2) 会場について
 ・H.メトロポリタン本館にて総会、講演会、懇親会を行う。

(3) 講演会について
 ・寺田林太郎先生(世話役：柳澤 泰先生)と田中健一先生。

(4) 来年度の講演会の講師について
 ・近藤尚知先生(岩手医大インプラント科)と大久保卓也先生(新41回)
 (文責：熊谷哲也)

平成23年度第2回幹事会

日 時：平成23年2月29日(水) [於：「寿し利」]
 出席者：山田康平会長、田中健一、小山田榮二、小豆嶋正典副会長、中野廣一幹事長、赤坂俊彦、柳澤 泰、関 克典、亀田幸宏、上原 豊、熊谷哲也、波紫修一、西郷史郎、大久保卓也の各幹事、村上 修 監事、横澤昭平 顧問(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告：6月18日総会、講演会、懇親会(28名参加)▼会員から義援金を募り33名から20万円の献金があった。昨年9月に被災会員4名に各々5万円送金した▼平成24年度講演会外部講師は、近藤尚知先生(岩手医大インプラント室長)のご都合(岩手医大・ハーバード大共催セミナー日)により、成石浩司先生(同大う蝕抑制学分野准教授)に変更になった。近藤先生は次年度に順延▼平成23年6月16日：武田秀雄先生(新24回生)ご母堂様御逝去：会からお弔電。7月8日：桂啓文先生(新14回生)ご母堂様御逝去：会からお香典。12月26日：関 克典先生(新34回生)ご尊父様御逝去：会からお香典。

(2) 赤坂会計担当幹事より平成23年度の会計中間報告：
 <収入>収入合計487,132円(内訳：当日会費6,000×23=138,000、当日年会費5,000×11=55,000、振替入金5,000×27=135,000、振込入金5,000×17=85,000、雑収入10,000、利息53)
 <支出>支出合計357,207円(内訳：総会費240,182、講師謝礼70,000、車代10,000、総会資料作成費・送料34,837、会印作製費12,600、慶弔費13,507、自動振替手数料5,922)

<収支> 487,135円 - 387,048円 = 100,087円

(3) 波紫名簿担当幹事より、会員名簿の充実のためには母校からの情報収集が不可欠であることが示された。

(4) 山田会長から石桜同窓会(H23/11/27)に出席し、石桜同窓会活性化委員会(村井委員長)が発足した旨の報告があった。

2) 審議事項

(1) 平成24年度総会・講演会・懇親会に関する件
 ・6月16日(土)夜6時から、メトロポリタン盛岡本館にて開催。

・講師は大久保卓也先生(新41回生)と成石浩司先生(岩手医大)

(2) 平成25年度講演会講師に関する件
 ・柳澤 泰先生(新31回生)と近藤尚知先生(岩手医大インプラント科)

(3) 平成26年度以降の講演会講師に関する件
 ・内部講師：平成26年度米内正先生、27年度亀田幸宏先生予定。
 (文責：熊谷哲也)

事務局からのお知らせ

■ 会計からのお願い

年会費のご納入が未だでございましたら、下記口座へ5,000円のお振込みをお願いいたします。銀行口座からの自動振替制度のご利用が便利です。事務業務も大変簡素化され助かりますので、お手続きを宜しくお願いいたします。

■ 「銀行振込み口座」

東北銀行 大通支店(支店コード103)
 (普通) 3162801 歯科医師石桜会 会計 赤坂俊彦

■ 「口座振替依頼書」のお手続きの問合せ・送付先
 〒020-0016 盛岡市那須川町29-2 赤坂病院歯科
 歯科医師石桜会 会計 赤坂俊彦 宛
 TEL : 019-624-1225 FAX : 019-623-1825

■ みなさまの声をお寄せ下さい

本会についてのご意見・ご要望、会員名簿のご訂正や名簿に掲載されていない岩手中高卒の歯科医師情報、会員のお悔やみ情報などがありましたら事務局までお知らせ下さい。

歯科医師石桜会事務局

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70
 くまがい歯科クリニック内
 TEL / FAX : 019-632-1188
 E-mail: tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

編集後記

早いもので、忌まわしい3.11の大震災と大津波から1年余りが過ぎようとしています。過日、義援金をお願いしたところ、内外の数多くの会員から浄財を頂戴いたしました。不屈の精神を持ちながら、他者を思いやる熱き石桜精神を垣間見た思いがいたしました。

昭和52年(1977年)に発会した歯科医師石桜会は、今年で35年目を迎えます(会報第2号参照)。今年の総会・懇親会(6月16日)は「被災会員を励ます会」を併催するため、「歯科医師石桜会設立35周年記念会(仮称)」は繰り延べて来年の開催となる予定です。同じ石桜の学会を巣立った歯科医師が一同に会し、さらに「絆」が強まることを期待してやみません。(中野廣一記)



Since 1977
SEKIO Association
of Dentists

Bulletin of SEKIO Association of Dentists

歯科医師石櫻会会報

第 5 号

発行 ■ 歯科医師石櫻会事務局 〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70 くまがい歯科クリニック内 TEL / FAX: 019-632-1188 題字: 横澤昭平



「組織におけるナンバー 2」

歯科医師石櫻会
会長 山田 康平

いくつかの団体、組織の会長を経験している。今回もそうであるがどうも居心地が悪いのです。私は会長の器ではないのであろう。会長ナンバー 1 (No. 1) とそれを支えるナンバー 2 (No. 2) について考えたことがあったので書いてみたい。

組織が充実し、大きくなってゆくには No. 2 の存在とその役割が重要である。学術、会計、庶務、広報など部門の長としての No. 2、またトップに策を授け、知恵、情報を授ける参謀としての No. 2、組織の中を運用してゆくのにこまごまとしたことをトップと一体となってゆく補佐役としての No. 2、この三つの No. 2 がうまく運用し、活躍出来る時組織は大きくなってゆくのであろう。No. 2 は自分の功績を一切言わない、功を争っては足の引っ張り合いとなり No. 2 にはならないのである。その代わりあの人の言うことは聞かざるをえない、常に中立の立場にあり裁定者としての登場が出来る。そういう状態を保つことが No. 2 には必要である。一方、No. 1 はビジョン、理想を持ちきらびやかに方向を示さなければならない。理念だけでは No. 1 になり得ない。トップの欠点を補い自分はその実現の一部であったという匿名の情熱のもてる人物が真の No. 2 の資質であると思う。No. 1 も No. 2 もともに能力が必要であるがそれなりの能力のある人は皆 No. 1 を目指す。No. 1 はその時代時代にでるが No. 2 の得難い才能、その出現は少ない。一昔前、そんなことを考えたりしていた。

我々歯科医師石櫻会には、得難い、優秀な補佐役、参謀役の No. 2、きらびやかな No. 1 候補も数多くおられ、将来も安泰であると確信する。

やはり私は No. 1 の器ではないか…。

前会長横澤昭平先生は歯科医師石櫻会の会員名簿の整備作成をされました。今年度はこの会の歩み、歴史をまとめ、残したい。その道筋をつくり次期執行部に実務を託したいと考えている。会員各位のご協力をお願いいたします。

掲載内容

- ・ 巻頭言
- ・ 平成 24 年度総会報告
- ・ 平成 24 年度講演会報告
講演 1 (新 41 回生)
大久保 卓也 先生
講演 2 (岩手医大歯学部准教授)
成石 浩 司 先生
- ・ 石櫻トピックス
- ・ 役員名簿
- ・ 幹事会記録
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 編集後記



平成24年度総会 および被災会員を励ます会報告



平成24年6月16日(土) ホテル・メトロポリタン盛岡本館において、大久保卓也先生、成石浩司先生の講演会後に平成24年度歯科医師石櫻会の総会が29名の会員出席のもと開催された。田中健一副会長の開会の辞、山田康平会長挨拶の後、上原豊幹事の司会で池田健会員が議長を務め議事が進化した。中野廣一幹事長より平成23年度の会務報告、赤坂俊彦会計幹事より会計報告がなされ、村上修監事より会務・会計内容が適切である旨の監査報告あった。平成24年度事業計画等について審議され、原案通り承認された。また、山田会長より来年度35周年の記念する事業を行うための特別委員会の結成の要請があり承認された。小豆嶋正典副会長の閉会の辞で閉会した。総会後の懇親会は被災会員を励ます会を併催し、山田町の千代川泰久先生、宮古市の伊藤篤先生、道又元先生方から被災時の状況や近況報告をいただき、盛会裏の内に次年の再開を期して中締めとなった。



東日本大震災犠牲者への黙祷と献杯



千代川泰久先生



伊藤篤先生



道又元先生



講演 1

「義歯長期経過に関する考察」

大久保卓也 先生 (新41回生)

岩手医大歯学部補綴・インプラント学講座
(現在盛岡市開業)



8020運動の展開により高齢者の無歯顎者率は30年前と比べ大幅に減少しているが、急激な高齢者人口の増加により無歯顎者数は増加しているのが現状である。高齢者は長期間義歯を使用していることが多く、その顎堤状態は様々な変化を呈している。多くの義歯使用者は顎堤変化に伴う義歯使用感のわずかな低下では歯科医院を受診せずに試行錯誤的に対応されている。

顎堤の変化に対して歯科医師が行う方法にはリラインがある。一般的にはチェアサイドで行う直接法リラインを選択される。この方法は簡便ではあるが粘膜刺激性があり唾液の介在によりメーカーの標榜する接着力は望めず、徐々に既存の義歯床とリラインレジンとの境界から剥離、汚染されることもしばしばである。対して、間接法リラインでは接着阻害因子のない環境でリライン操作が可能である。

従来、義歯の不適合を訴える患者には広範な義歯性口内炎など粘膜性状の改善を図る必要があり、粘膜調整の後にリラインや新義歯製作に進むことになる。近年、動的機能リライン材と呼ばれる粘膜調整材から自発的硬化反応によりリライン材に変化する材料が市販されている。本材料は印象面が徐々に硬化し、患者の日常生活など機能時の辺縁・粘膜形態がそのまま常温重合レジン程度の硬さまで硬化が進む。欠点として研磨が不可能であり、表面性状の荒れがあるが表面滑沢材を繰り返し塗布することにより、研磨効果・表面保護・耐磨耗性の向上などの効果が得られる。また、摂食嚥下障害を有する患者に対して使用中の義歯を用いた

舌接触補助床の製作に有効である。

義歯を長期間適切に使用するには義歯洗浄が不可欠である。義歯洗浄剤には様々な種類があるが過酸化水素系は過酸化水素による殺菌と漂白、次亜塩素酸系は漂白作用・殺菌作用が高いが金属腐食やレジンの劣化を生じさせる可能性がある。酵素系は酵素によるタンパク質分解作用により洗浄するものであり、他の洗浄剤に比べてその洗浄効果は低い。そのため動的機能リライン材や軟質リライン義歯の洗浄に適応される。

義歯洗浄については二酸化チタンによる光触媒技術の応用が期待されている。この二酸化チタンは、太陽光や蛍光灯の紫外線が当たることにより活性酸素などを発生し強い酸化分解作用を発揮する優れた機能を有し、二酸化チタン配合義歯床用レジンの開発が進められ、抗菌・脱臭・セルフクリーニングが期待されている。この二酸化チタンによる光触媒技術は義歯洗浄剤にも応用され、紫外線を照射することにより洗浄効果が発揮される製品もある。

要介護高齢者の増加により誤嚥性肺炎と口腔内衛生状態の関連が注目されているが、口腔ケアにより発熱・肺炎の発症や死亡者数の減少させることが明らかになっている。口腔ケア・義歯ケアが誤嚥性肺炎の予防に貢献し、患者がなじんでいる義歯を適切かつ清潔に継続使用していただくことが患者のQOLの向上につながるものと考えられる。心からお詫び申し上げます。(講演者 自抄)



講演 2

「沈黙の疾患歯周病を考える！」

成石浩司 先生

岩手医大歯学部 う蝕抑制学分野 准教授

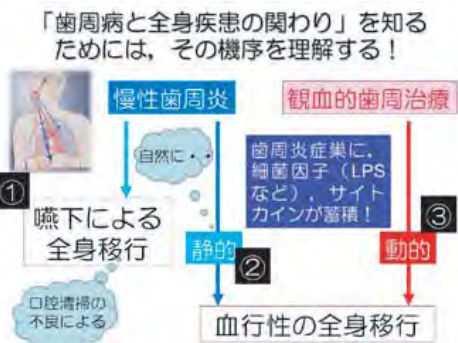
慢性歯周炎(歯周病)は、口腔内の常在菌の作用によって発症する感染症であり、その病態は免疫反応に依存します。したがって、細菌・免疫学的検査によって治療の成否が診査されるのが好ましいと思われませんが、現在の医療保険収載の歯周検査は、歯の動揺度、歯周ポケット深さ、あるいは歯槽骨吸収度などの「組織破壊度」を指標に実施されています。我々、歯周病研究者は、このような情勢に危惧を覚えており、いかにして歯周病検査に細菌・免疫学的概念を盛り込むかについて議論してきました。今回、

従来の歯周精密検査に並行して細菌・免疫学的検査(歯周ポケット内細菌DNA検査および血清IgG抗体価検査)を行った重度歯周病患者症例を通じて、我々の医療理念を紹介させていただきます。

外科的な歯周治療は、重度歯周病患者の予後安定のために必要な治療技術であると考えられます。とりわけ、臨床の現場では、歯周基本治療後に残存した深い歯周ポケットに対する外科療法として、歯肉剥離掻爬術(フラップ手術)が頻用されています。この療法は歯周ポケットの健全化に有用である反面、治癒後、長い上皮性付着が形成されるため、再発しやすいとされています。したがって、最近では上皮性付着ではなく強固な結合組織性付着を獲得しやすい術式が励行されるようになってきました(歯周組織再生療法)。さらに、歯周組織の長期安定化を図るために遊離歯肉移植や結合組織移植を行うことで「付着歯肉」幅を獲得することも重要な外科処置の目的と考えられます。今回、このような歯周外科処置を行う意義について解説させていただきました。

歯周病は疼痛なく進行する「沈黙の疾患 silent disease」であるため、患者自身、気付かないまま悪化することが多いという特徴を有します。昨今、歯周病による慢性感染が全身疾患を悪化することが知られるようになりました。とりわけ糖尿病と歯周病の双方向の連関は、研究・臨床の両面からのアプローチによって、ますます理解が深まっています。

平成19年には、我が国の今後10年間にわたる健康指針として、新健康フロンティア戦略が発表され、その中に「歯の健康力」が組み込まれました。これまで、歯の延命を図ることが主目的であった歯科治療が、患者の全身の健康を守ることに貢献し得ることを提唱することが、今後の歯科医療界の趨勢になることを希望します。(講演者 自抄)



平成24年度 歯科医師石櫻会 総会・講演会・懇親会(被災会員を励ます会) 参加者のご紹介(敬称略)



後列左から：中野廣一、西郷史郎、亀田幸宏、関根 元、上原 豊、熊谷哲也、徳富 亘、田中崇一、波紫修一、田中 俊
 中列左から：村上修、岡田伸男、関 克典、柳澤 泰、小豆嶋正典、田中健一、八重樫良昌、池田 健、志和宏俊、赤坂俊彦
 前列左から：道又 元、伊藤 篤、千代川泰久、村井伸吾校長 成石浩司先生、山田康平 横澤昭平 大久保卓也 伊保内利一、米内正

石櫻トピックス

皆様ご存じの盛岡八幡宮。宮司の藤原隆麻呂氏は岩手高校新24回生。宮司は八幡宮の後援会崇敬会、成年部葉桜会とともに八幡宮や八幡町界隈を華やかにしようと日々考えています。拝殿でのロンドンフィルコンサート、ジャズの夕べなどを催し、いろんな方に八幡宮を知っていただくをしています。初詣くらいしか行かない所ですが一度散歩がてら行ってみてください。心休まるパワースポットがあり、懐かしい夏のカキ氷、ナポリタン、ベル以上?のハンバーグがある喫茶『茶吹』も最高です。愉快的な禰宜や巫女さん達も待っています。是非、是非。(赤坂俊彦 記)



役員名簿

(任期：平成23年4月1日-平成25年3月31日)

- 会 長 山田康平
- 副会長 田中健一、小山田榮二、小豆嶋正典
- 幹事長 中野廣一
- 幹 事 柳澤 泰、上原 豊
- 学術 赤坂俊彦、西郷史郎
- 会計 熊谷哲也、大久保卓也、内田良夫
- 庶務 亀田幸宏、波紫修一
- 名簿 関 克典、久保田文彦
- 広報 道又 元、村田昌明、佐々木正博
- 地区 岡田伸男 (学術と兼務)
- 学内
- 顧問 岡田宗二、横澤昭平
- 監 事 桂 啓文、村上 修 (敬称略)

幹事会記録 (抜粋)

平成24年度第1回幹事会

日 時:平成24年6月8日(木) [於:「花梨」]
出席者:山田康平会長,田中健一、小山田榮二副会長,中野廣一
幹事長,赤坂俊彦,柳澤泰,関克典,亀田幸宏,熊谷哲也,
波紫修一,西郷史郎,大久保卓也の各幹事
村上 修監事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告:平成24年2月16日幹事会▼6月16日総会、講演会▼4月:総会、講演会の案内、会費自動振込み用紙、会報第4号の発送、5月:2回目の案内発送。▼平成23年7月8日:桂 啓文先生(新14回生) 御母堂様ご逝去:会からお香典。12月26日:関 克典先生(新34回生) ご尊父様御逝去:会からお香典。

(2) 赤坂会計担当幹事より平成23年度の会計報告:
<収入>収入合計 487,135円(内訳:当日会費7,000×27=189,000、当日会費学生3,000×1、当日年会費5,000×16=80,000、振替入金5,000×28=140,000、振込入金5,000×13=65,000、雑収入10,000、決算利息135)

<支出>支出合計 392,048円(内訳:総会費240,182、講師謝礼70,000、車代10,000、資料作成費等34,837、会印作製費12,600、弔電3,507、香典(3件)15,000、自動振替手数料5,922)

<収支> 487,135円-392,048円=95,087円

2) 審議事項

(1) 会場について

・H.メトロポリタン本館にて総会、講演会、懇親会(被災会員を励ます会併催)を行う。

(2) 講演会について

・成石浩司先生(世話役:柳澤 泰先生)と大久保卓也先生。

(3) 次年度の35周年記念講演会の講師について

・近藤尚知先生(岩手医大補綴・インプラント科教授)(1時間30分の講演)

(4) 執行部役割分担の一部変更について

・大久保卓也学内幹事の今秋の開業に伴い、新学内幹事として岡田伸男会員が推挙され承された。大久保幹事は新たに庶務担当幹事を委嘱された。(文責:熊谷哲也)

平成24年度第2回幹事会

日 時:平成25年2月27日(水) [於:「花梨」]
出席者:山田康平会長,田中健一,小山田榮二副会長,中野廣一
幹事長,赤坂俊彦,柳澤 泰,関 克典,熊谷哲也,
西郷史郎,大久保卓也の各幹事,村上 修 監事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告:6月16日総会、講演会、懇親会(被災会員を励ます会併催)(29名参加)▼平成25年度開催予定の国会35周年記念祝賀会と記念誌の発行に向けて、記念祝賀会準備会(田中健一委員長)と記念誌準備会(小山田榮二委員長)を立ち上げた▼平成25年度の35周年記念講演会講師は、近藤尚知先生(岩手医大補綴インプラント科教授)▼平成24年8月31日:田口淳先生(新30回生) 御尊父様ご逝去・吉島一郎先生(旧13回生)ご逝去:会から弔電。9月2日:桂啓文先生(新14回生) 病氣見舞金。10月16日:小山田榮二先生(新20回生) 御尊父様ご逝去:会からお香典。11月18日:村田昌明先生(新24回生) 御尊父様ご逝去:会からお香典。

(2) 赤坂会計担当幹事より平成24年度の会計中間報告:
<収入>収入合計 445,109円(内訳:当日会費7,000×25=175,000、当日年会費5,000×13=65,000、振替入金5,000×30=150,000、振込入金5,000×9=45,000、雑収入10,000、利息109)

<支出>支出合計 391,782円(内訳:総会費267,180、講師謝礼70,000、車代10,000、総会資料作成費・送料14,545、慶弔費23,442、自動振替手数料6,615)

<収支> 445,109円-391,782円=53,327円

(3) 熊谷幹事より、充実した内容の会員名簿を記念誌に掲載するため亀田、波紫名簿担当幹事が検討している旨の報告があった。

(4) 田中記念祝賀会準備会委員長、村上副委員長、小山田記念誌準備会委員長、中野副委員長から進捗状況の報告があった。

2) 審議事項

(1) 会則改正の関する件

・岩手中学・高校を中途退学した者も会員にするため会則改正を行うこととなり、総会に諮ることとなった。

(2) 平成25年度総会・講演会・35周年記念祝賀会に関する件

・6月29日(土)夜5時から、メトロポリタン盛岡本館にて開催。

(3) 平成26年度講演会講師に関する件

・柳澤 泰先生(新31回生)と八重柏隆先生が野田守先生(岩手医大教授)

(文責:大久保卓也)

事務局からのお知らせ

■ 会計からのお願い

年会費のご納入が未だでございましたら、下記口座へ5,000円のお振込みをお願いいたします。銀行口座からの自動振替制度のご利用が便利です。事務業務も大変簡素化され助かりますので、お手続きを宜しくお願いいたします。

■ 「銀行振込み口座」

東北銀行 大通支店(支店コード103)
(普通) 3162801 歯科医師石桜会 会計 赤坂俊彦

■ 「口座振替依頼書」のお手続きの問合せ・送付先
〒020-0016 盛岡市那須川町29-2 赤坂病院歯科
歯科医師石桜会 会計 赤坂俊彦 宛
TEL:019-624-1225 FAX:019-623-1825

■ みなさまの声をお寄せ下さい

本会についてのご意見・ご要望、会員名簿のご訂正や名簿に掲載されていない岩手中高卒の歯科医師情報、会員のお悔やみ情報などがありませんでしたら事務局までお知らせ下さい。

歯科医師石桜会事務局

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70
くまがい歯科クリニック内
TEL / FAX: 019-632-1188
E-mail: tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

編集後記

今年の桜の開花予測は平年より約1週間早く、この会報がお手元に届く頃には「石割桜」は開花しているのではないのでしょうか。◆前号の石割トピックスで村上監事が、高橋克彦氏(新19回生)の言葉、我ら岩手高校の卒業生は「大地にしっかりと根を張り、柔らかな心ながら頑固な岩をも割る思いを持ち、自身の咲かせた美しい花を他人の喜びと変える思いを秘めている」を引用しておられました。◆それを実証するかのようには母校の囲碁部は2012年も全国制覇、将棋部は県大会個人戦1~4位独占、団体戦ではV3を達成、テニス部は県大会圧勝のV3と柔剛両面での母校の活躍が止まりません。◆昭和52に産声をあげた歯科医師石桜会は35年目を迎えます。人に喩えれば「成年」から「盛年」への移行期ともいえる節目の時期です。「石桜精神」をそれぞれの胸に秘め、さらなる成熟と発展を期しましょう。(中野 廣一 記)

歯科医師石櫻会会則

第一章 総 則

第1条 本会は歯科医師石櫻会と称し、事務局を会長指定場所とする。

第2条 本会は母校の発展に寄与し、会員相互の親睦と厚生福祉を図るを目的とする。

第二章 会 員

第3条 本会の会員は岩手中学校(旧制・新制)・岩手高等学校の卒業生および在籍した者であり歯科関係者とする。

第三章 機 関

第4条 本会に次の機関を置く。

1. 総会

2. 役員会

第5条 総会は毎年一回会長が之を招集する。又、役員会及び臨時総会は会長が必要と認めた時に之を招集する。

第6条 次の事項は総会に附議する。

1. 会則の変更に関する事。

2. 会計に関する事。

3. その他の重要事項。

第四章 役 員

第7条 役員本会に次の役員を置く。

会 長 1名

副会長 若干名

幹事長 1名

幹 事 若干名

監 事 2名

顧 問 若干名

第8条 役員は次の業務を行う。

- ・会長は本会を代表しすべての会務を総括する。
- ・副会長は会長の業務を補佐する。
- ・幹事長は会長を補佐し本会の日常業務を担当処理する。
- ・幹事は幹事長の業務を補佐する。
- ・監事は業務の執行状況並びに会計を監査し総会に

報告する。

・顧問は会長の諮問に応じ、または役員会に意見を述べるができる。

第9条 会長及び監事は総会において選出する。

第10条 副会長、幹事長及び幹事は会長が指名する。顧問は役員会で推薦し会長が委嘱する。

第11条 役員の任期は2年とし再任を妨げない。

第五章 事務局

第12条 事務局は幹事長を責任者として役員で構成する。

第13条 事務局は本会の日常業務及び連絡調整の業務に当たる。

第六章 会 計

第14条 本会の会計は会費、寄附金を以て維持する。

第15条 会費は総会により定める。

第16条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

・この会則は平成17年4月1日より実施する。

・平成17年6月18日の総会決議により、年会費は5,000円とする。

・平成19年6月16日の総会決議により、本会名称を岩手県歯科医師石櫻会から歯科医師石櫻会に変更する。又、役員の任期は2年とする。

・平成23年6月18日の総会決議により、役員の任期は、会計年度にかかわらず選任から2年後の総会終結の時までとする。

・平成25年6月29日の総会決議により、第3条に、卒業生のみならず、在籍した者も加える。

・平成25年6月29日の総会決議により、第8条に、顧問は会長の諮問に応じ、または役員会に意見を述べることができる。および、第10条に、顧問は役員会で推薦し会長が委嘱する。を加える。



編集後記

歯科医師石桜会35周年記念誌製作にあたり、中野幹事長をはじめとする編集委員の方々により、約1年前より企画を練り上げ準備してきました。掲載する文章の原稿をお願いしたところ、あいさつ文や会員寄稿など、多くの方々から快くご協力を頂きました。厚く感謝申し上げます。お陰様で充実した内容となったと自負しております。また、巻末の会員名簿作成には役員全員で確認作業にあたり、現時点で把握できた内容です。不行き届きな点など多々ある事と思いますがお許し下さい。

このように立派な記念誌の発行にご尽力頂いた編集委員の皆様と、無理を聞いて頂いたセーコー印刷様に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(新20回生 小山田榮二)

7月初旬。暦の上では「小暑」。此処盛岡は真夏を思わせる暑い日が続いております。予測によれば、この暑さで東北地方のお米の作況指数が上向いているとのこと、被災地の復旧復興はまだまだ遠く、豊作予測のニュースに少し心が晴れる思いがしております。

さて、この度の弊会35年記念誌の発刊にあたりましては多くの先輩諸兄、会員各位、関係各位から多大なるご協力をいただきました。

お陰様をもちまして、楽しい会員寄稿や、辛い思いをされた東日本大震災被災会員の記録なども交えて、弊会小史を次の世代に伝える貴重な記念誌に仕上がったのではないかと考えております。

ご投稿下さった方々に、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

また、これまで6回にわたる記念誌編集会議に、いやな顔ひとつせずにご参加下さった編集委員の皆様心から感謝申し上げます。

(予算の関係でペーパー版記念誌はパートカラーになりましたが、ネット版(PDF形式)はフルカラーです。本部石桜同窓会のウェブ・サイトでご覧いただけます)

(新22回生 中野廣一)

歯科医師石桜会35周年の節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊できましたこと、皆々様に心より深く感謝いたします。本記念誌の作成にあたり改めて、35年の歴史を振り返るとともに、諸先輩諸先生の方々の学生時代の様子や近況報告のご寄稿を拝見し、まるでその時代にタイムスリップしたような気持ちにもなりました。微力ではありましたが、今回、編集委員として携わる機会がもてましたこと、ありがとうございました。石桜精神を忘れることなく、日々努力して行きたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(新34回生 関 克典)

今回名簿の担当をさせていただきました。もともとは、道又先生がこつこつと作られたものが、ほぼ母体となっています。皆様のお役に立てば幸いです。



す。訂正、変更はいつでもご連絡下さい。

(新35回生 亀田幸宏)

このたびの記念誌の編集にあたり会員寄稿を担当させていただきました。みなさまご多忙にもかかわらず、当初予想しておりました数よりもはるかに多くの寄稿を頂戴できました。あらためてこの場をおかりして感謝申し上げます。この記念誌を見ていただいて、さらに多くの会員の先生方がこの会の活動に参加していただける一助になれば嬉しく思います。

(新40回生 熊谷哲也)

数年前から歯科医師石櫻会のお手伝いさせていただくようになり、若いころは石櫻愛など感じませんでしたが、40を過ぎ、長男が岩高に入学したころから母校に懐かしさや、親しみを感じる気持ちが強くなってきたように感じています。

今回、この記念誌を先輩方には楽しんでいただき、若い先生方には少しでも石櫻愛を感じていただけたのであれば幸いです。

最後に記念誌発刊にあたりご尽力くださいました皆さま、また、資料準備や情報をくださった岩手高校同窓会事務局長であり現岩手高校教員の中山泰志先生（先輩）、本当にありがとうございました。

個人的には二人の現役岩高生の父として、また、何年後かの懇親会の席で「三男も岩高生になってしまいました！！」と言える日が来ることを楽しみにしています。

(新40回生 西郷史郎)

歯科医師石櫻会35周年記念誌の発行に当たり、私は名簿の部分を担当致しました。名簿の見直しにおいては各先生方に多大な協力をしていただき、ありがとうございました。35周年の総会、講演会も成功のうちに終了致しました。歯科医師石櫻会はこれからも歴史を積み重ねてまいります。この会の発展のため、かなり微力ではありますが頑張っておりますので、よろしくお願い致します。

(新40回生 波紫修一)

今回、歯科医師石櫻会の35周年記念誌編集委員として「校正作業・割付等」を担当させていただきました。校正にあたり寄稿を最初に読ませていただきましたが、諸先生方の近況などを身近に感じることができ、なかなか面白い内容になっているのではないかと思います。

私は昨年より幹事を務めておりますが、石櫻会の結束力の強さに感動しました。今後も微力ながら発展のため尽力していきたいと思います。

最後に、ご多忙のなか原稿を書いていただいた先生方に深謝いたします。ありがとうございました。

(新44回生 岡田伸男)

35周年記念講演会・祝賀会の写真撮影は、中島久雄氏（前岩手医科大学画像情報センター技師長）、ビデオ撮影は、高橋浩二氏（石桜同窓会常任理事）、ビデオ編集・DVD作成は、赤澤征夫氏（石桜同窓会HP委員長・総務委員長）に行っていただきました。心から感謝申し上げます。

歯科医師石桜会35周年記念誌

平成25年 8月

編集・発行 歯科医師石桜会35周年記念誌編集委員会

（歯科医師石桜会事務局）

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70 くまがい歯科クリニック内
TEL:019-632-1188（FAX共通） E-mail:tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

印刷・製本 ㈲セーコー印刷

〒020-0877 盛岡市下の橋町2-23
TEL:019-651-3606 E-mail:se-ko-p@themis.ocn.ne.jp



校 訓（三綱領）

養正
ようせい

重暉
ちようき

積慶
せきけい

校 歌

作詞 土井晚翠
作曲 山田耕筰

- 一、 旭日あさひにおう桜花さくらばな
其芽そのめ大地の深きより
出でて貫く花崗石みかげいし
郷さとの名所青春なごころの
意気をかたどるうれしさよ
- 二、 見よ金剛の不壊ふえの念
神と祖国と人道の
三つに仕えて怠らず
日々につとめて光榮を
期する一団若き友
- 三、 大沢川原もとをおく
わが中学の同じ窓
希望のぞみの光身に浴びて
心ひとしくすこやかに
高き遠きにあこがるる
- 四、 無言のさとし朝夕に
七千尺の岩手山いわたてやま
北上川の八十里
友よ心の目にも見て
いざ向上の道踏まん